

第18集

神崎市青少年主張大会



とき 令和6年1月27日(土)

ところ 神崎市中央公民館 講堂

主催 神崎市青少年育成市民会議 / 共催 神崎市、神崎市教育委員会  神崎ロータリークラブ



第18回 青少年主張大会プログラム

日 時 令和6年1月27日(土) 9:30~12:00

場 所 神埼市中央公民館 講堂

会 順

1 開 会 (9:30~9:40)

- (1) 開会のことば 副会長 田原 和幸(市議会議長)
- (2) 会長あいさつ 会 長 内川 修治(市長)
- (3) 共催あいさつ 来 賓 大川 哲矢(神埼ロータリークラブ会長)

2 青少年の主張(9:40~11:00)

順番	主 張 題 目	学 校 名	学年	氏 名
1	学ぶことで未来は広がる	千代田東部小学校	6年	垣副 胡奈
2	明るい町づくり	千代田中部小学校	6年	槇 ちひろ
3	この目で見てみたい!	千代田西部小学校	6年	百武 龍希
4	命を奪う戦争	脊 振 小 学 校	6年	中島 杏奈
5	戦争について考えたこと	神 埼 小 学 校	6年	高崎 乃愛
6	技能実習生との交流を通して	西 郷 小 学 校	6年	野田 幸輝
7	見守り隊の方々の力	仁 比 山 小 学 校	6年	宮崎陽菜乃
8	神埼の偉人から学ぶこと	千 代 田 中 学 校	1年	田中 希采
9	今、私にできること	脊 振 中 学 校	2年	宮田 望愛
10	問題解決するために	神 埼 中 学 校	1年	末吉 佑芽
11	私の福祉の原点	神 埼 清 明 高 校	2年	田中 心裕
12	夢のヒーロー	神 埼 高 校	1年	久野 龍馬
13	これからの人生	西 九 州 大 学	2年	中野 晃成
14	私の将来の夢	二 十 歳 代 表	-	本間 遼平

3 特別出演(11:10~11:30)

- 吹奏楽部の演奏 千代田中学校
「青と夏」「Paradise has no border」
「学園天国」 etc.

- 4 講 評 理事長 末次 利明(教育長)
- 5 表 彰 会 長 内川 修治(市長)
- 6 閉 会 副会長 八谷 好弘(区長会長)

- * 司会 神埼清明高校 2年 古賀 王海 1年 西原 紅
// 1年 前田 陽向

目次

	はじめに……………	神埼市青少年育成市民会議会長	内川修治……………	4
	青少年の主張(○は発表者)			
○1	学ぶことで未来は広がる……………	千代田東部小学校	垣副胡奈……………	5
○2	明るい町づくり……………	千代田中部小学校	榎ちひろ……………	6
○3	この目で見てみたい！……………	千代田西部小学校	百武龍希……………	7
○4	命を奪う戦争……………	脊振小学校	中島杏奈……………	8
○5	戦争について考えたこと……………	神埼小学校	高崎乃愛……………	9
○6	技能実習生との交流を通して……………	西郷小学校	野田幸輝……………	10
○7	見守り隊の方々の力……………	仁比山小学校	宮崎陽菜……………	11
○8	神埼の偉人から学ぶこと……………	千代田中学校	田中希采……………	12
○9	今、私にできること……………	脊振中学校	宮田望愛……………	13
○10	問題解決するために……………	神崎中学校	末吉佑芽……………	14
○11	私の福祉の原点……………	神埼清明高校	田中心裕……………	15
○12	夢のヒーロー……………	神埼高校	久野龍馬……………	17
○13	これからの人生……………	西九州大学	中野晃成……………	18
○14	私の将来の夢……………	二十歳代表	本間遼平……………	19
15	夢をかなえるために……………	千代田東部小学校	園田悠斗……………	20
16	これからのスマートフォン問題……………	千代田中部小学校	川原悠聖……………	21
17	こんな神埼市にできたらいいな……………	千代田西部小学校	牛島彩花……………	22
18	将来してみたい仕事……………	千代田西部小学校	中島桜心……………	23
19	日本で有名なバレーボール選手になるために……………	脊振小学校	末次大空……………	24
20	ぼくの尊敬するお兄ちゃん……………	神埼小学校	八谷快智……………	25
21	いろいろなことを学べた自然教室……………	神埼小学校	宮副恭輔……………	26
22	自然教室を通して学んだこと……………	神埼小学校	小森絢心……………	27
23	私が住みたい神崎市……………	神埼小学校	八坂莉緒……………	28
24	いじめのない神崎市……………	神埼小学校	馬場めい……………	29
25	私の夢……………	西郷小学校	中尾空亜……………	30

26	明るい学校生活を送るために	仁比山小学校	五年	手島秋子	31
27	「二日の始まり」を大切に	仁比山小学校	五年	江越莉史	32
28	私の将来の夢	千代田中学校	一年	西村優羽	33
29	「公平」な教育	千代田中学校	一年	佐野明花	34
30	言葉の重さ	千代田中学校	二年	中野沙彩	36
31	人との関わり	千代田中学校	二年	今野陽菜	37
32	さりげない気遣い	千代田中学校	二年	船津美	38
33	おいしい食べ物を食べるために	脊振中学校	一年	山下悠	39
34	いじめをなくすためにできること	神崎中学校	一年	檜枝結菜	40
35	いじめの恐ろしさ	神崎中学校	一年	早田ゆい	41
36	「いじめ」って?	神崎中学校	一年	増田凜	42
37	私の夢と動物たちの社会問題	神崎中学校	一年	野中碧真	43
38	宗教の在り方	神崎中学校	二年	古川千歳	45
39	国境を越えて	神崎中学校	二年	長尾結花	46
40	体験を通して学んだこと	神崎中学校	二年	有馬京里	47
41	いじめられた人々	神崎中学校	二年	測上乃愛	48
42	「ごましお」から学んだこと	神崎中学校	二年	直塚志歩	49
43	私が住みたい神崎市	神崎清明高校	二年	辻蘭丸	50
44	ボランティア活動を通して	神崎清明高校	二年	堤千紗	51
45	体験を通して学んだこと	神崎清明高校	二年	松本優香	53
46	私の夢	神崎清明高校	二年	松永	54
47	楽しむことの大切さ	神崎高校	一年	福地優衣	55
48	ラブマイセルフ	神崎高校	二年	井上陽愛	56
49	環境問題解決に向けて私ができること	神崎高校	二年	宮原真希	57

特別出演

◇千代田中学校 吹奏楽部のみなさん

◎冊子表紙絵
◎主張大会ポスター

神崎小学校 六年 多田美桜里さんの作品
神崎中学校 二年 末次 柚希さんの作品

はじめに



神崎市青少年育成市民会議

会長 内川 修 治

青少年の健全育成につきましては、日頃から、各学校をはじめとして関係機関、各種団体、および市民の皆様方の格別のご支援を賜り厚くお礼を申し上げます。お陰様で、神崎市の多くの若者や子どもたちは勉強、スポーツ、ボランティア活動などに積極的に取り組み、たくましく成長しております。

さて、新型コロナウイルス感染症への対応が五類へ移行したことに伴い、多くの行事・イベントが以前の形で開催されるようになり、人と人との交流が活発になりました。青少年にとっても、自分の力を発揮し活躍する場が格段に増加しました。一方で、学校でのいじめ認知件数や不登校の児童・生徒の数が過去最大になったという報道がありました。児童虐待、貧困問題、SNS上での人権を無視した誹謗中傷の問題など青少年に関する問題は複雑化し、深刻な状況にあります。県内の刑法犯少年も平成十年以降減少していましたが、令和四年から微増に転じました。

こうした中、神崎市では四年ぶりに「地区懇談会」をほとんどの地区で通常開催しました。これは、地域の大人たちが、地域の子どもを真ん中にした話し合いです。「小学生も中学生もあいさつが元気

で気持ちがいい」との声が多く上がりました。保護者のみなさんからは登下校の見守り活動への感謝の声も多かったです。年に一度の「地区懇談会」ですが、本市の地域の教育力がまだまだ機能していることの証明となりました。

さて、この「主張大会」は、市内の小・中学生をはじめ、高校生、大学生、二十歳の皆さんが、日ごろ考えていることや将来の夢、社会に対する意見や希望などを力強く発表する場です。青少年の皆さんが、自分や社会を深く考える力を身につけるとともに、多くの市民の皆さんに青少年に対する理解と関心を深めていただくことを目的として開催しているものです。

ここに掲載された主張は、一〇三四名の応募者の中から選考されたもので、いずれも、体験に基づいた自分の生き方や、自らの目で見つかりと見つめた社会問題など、感銘深い内容です。その中から、十四名の皆さんに発表していただきます。

また、特別出演として、千代田中学校吹奏楽部による素晴らしい演奏をお願いします。神崎清明高校放送部のみなさんによる美しい発音・発声による司会も楽しみです。

最後に、本大会の開催にあたり共催いただきました神崎ロータリークラブ、また、後援していただきました区長会、自治公民館連絡協議会、PTA連絡協議会、子どもクラブ連絡協議会、神崎地区少年補導員連絡協議会、神崎地区保護司会、そして、ご協力いただいた各学校の先生方、保護者をはじめ関係者各位に心からお礼を申し上げます。

今後とも、神崎市の発展と地域の教育力の向上に努めてまいりますので、皆様のご支援、ご協力を心からお願い申し上げます、ご挨拶いたします。

学ぶことで未来は広がる

千代田東部小学校 六年 垣 副 胡 奈

私は、今年、佐賀県とJAXXAが連携して開催しているJAXGASCHOOL高学年の部の受講生になり、宇宙や自然について学んでいます。

その授業の一環で、太良町にある竹崎島に行きました。島の特産物や文化、自然を学ぶことが目的です。しかし私は、島に行くまでは、どうしても自然が好きとは思えませんでした。なぜかという自然は、世界各地で災害を起こし、生き物を艱難辛苦に陥れていることをテレビや新聞の報道で知っていたからです。でも竹崎島を訪れてその思いは消えていきました。島で出会った漁師さんとの交流。コハダやカニなどの貴重で美味しい海の幸。それから、道中に咲いていた生命力で輝いている草花たち。竹崎島の魅力を体いっぱい感じる事ができました。そして、自然はみんなを包んで幸せにしてくれる素晴らしいものだと思います。この経験から、一つの情報だけで物事を判断するのではなく、調べたり、考えたり、時には実際に体験したりしてみることが大切だと思いました。そうすることで、自分の物の見方や考え方が広がっていくと思えました。

また、宇宙ステーションで働く宇宙飛行士の方の話も聞きました。宇宙飛行士のみなさんは、限られた空間で他の国の人達と長い時間、一緒に生活することになるそうです。考えただけでも大変なことに違いありません。それを乗りこえるためには

どんな力が必要なのでしょう。一つは、異なる文化・価値観に対する敬意をもって交流するコミュニケーション能力です。もう一つは、チームの一員として共同作業を行うことができる協調性です。最後は、ストレス環境下でも正しく判断し行動にうつせる力です。これらの力を使うことで、過酷な環境でも気持ちよく、仲良く仕事や生活ができるそうです。この話は、中学校入学を控えた私の心にしつかりと届きました。これから迎える中学校生活では、初めてのクラス替えがあり、違う学校の友達との出会いもあります。不安もありますが、宇宙飛行士のみなさんのように、相手を尊重し、互いに協力し合っていくと思います。困難にぶつかっても、みんなで考えを出し合い、よりよい方法を見つけ、解決して、充実した中学校生活にしていきたいと思っています。

様々な体験とともに素敵な言葉とも出合いました。特に心に残ったのは、自身はがんと闘いながら宇宙教室や宇宙授業で全国を飛び回っておられる元JAXXA研究員のミツキー先生こと小口美津夫先生の「いろいろなことに興味を持ち、おそれずにチャレンジを。今という時間は一度だけ。毎日を大切に。」という言葉です。この言葉は、私に勇気をくれ、背筋をぴんと伸ばさせてくれます。

これからどんな未来が待っているか、それを決めるのは自分自身です。学ぶことで知識が広がり、ものの見方や考え方も変わっていく、この経験を力にして、力強く未来へ進んでいきたいと思っています。

明るい町づくり

千代田中部小学校 六年 植 ちひろ

みなさんは、自分の住んでいる町が明るくて住みやすい町だと思いますか。それとも、少し暗い雰囲気に住みにくい町だと感じますか。たとえ今、明るく住みやすい町だったとしても、もっと誰もが安全に安心して住める町になってほしいと私は思います。そんな明るい町をつくるためには、まず、きれいにすることが大切だと思います。そこで、私は神崎市にたくさんあるクリークや道をきれいにすべきだと考えます。

私が住んでいる神崎市では、定期的にごみ拾いが行われています。五月や十月には「クリーン作戦」が行われ、私も参加しました。そのときに、道端やクリークに多くのごみが捨てられていることにも驚きました。どうして自分が住んでいる町にごみを捨ててしまうのだろうと思いました。それに、登校しているときに大きな道路よりも草が生い茂っている細いあぜ道の方が、たくさんごみが落ちていることに気付きました。きっと人から見えない場所だからと思っただのかもしれませんが。神崎市にはあぜ道やクリークが多くあり、そういうところが多いと思われれます。

ニュースで、道端にごみが捨てられている町では、犯罪率が高くなる傾向にあったり、町の印象が悪くなり人口が減少したりするなど、町にとって良くないことがたくさんあるという記事を見ました。犯罪が多いと安心して住むことができません。

また、悪い印象をもたれてしまうと人が集まらずに活気のない町になってしまいます。私は、町をきれいにするために二つのことを提案します。

一つ目は、一人ひとりがごみをポイ捨てしないことです。道やクリークにごみがあるのは誰かがごみを捨てているからです。だから、外に出る際はなるべくごみを出さないようにし、それでも出てしまうようならばごみを捨てるための袋を持って行くことで、ごみがポイ捨てされなくなると考えました。

二つ目は、落ちているごみを積極的に拾うことです。散歩などのついでに、気付いた人が自主的にごみを拾う習慣を身に付けることでさらに町全体がきれいになると考えます。散歩をすることで健康にもよく、かつ、ごみ拾いをするので清々しい気持ちで過ごすことができるでしょう。

残念なことに、中には自分一人ぐらいごみを捨ててもいいと考える人もいます。この考え方は町全体に悪い影響を与えるだけでなく自分自身にも悪い影響を与えています。ポイ捨ては法令違反であり、様々な条例などでも禁止されている行為です。また景観を損ねるだけでなく、火災や交通事故の原因となることもあるのです。「これくらいならいいだろう。」「自分だけならいいだろう。」という軽い気持ちでポイ捨てを行うと取り返しがつかないことになってしまいかもれません。

以上のことから、住みやすい明るい町にしていくためには、まずは道やクリークなどをきれいに保つことが大切だと考えます。そうすればもっと神崎市は笑顔があふれる明るく楽しい町になるでしょう。

私は、休みの日、運動のために地域を走っています。そのときは袋を持って行き、ごみを拾うようにします。

この目で見てみたい！

千代田西部小学校 六年 百 武 龍 希

「地球は青かった」

これは、人類初の有人宇宙船ボストーク一号に搭乗したガガーリンが、宇宙から地球を見た時に言った言葉です。

僕には、宇宙飛行士になるという夢があります。なぜなら、日本人で宇宙飛行士になった方も少なく、まだまだ分からないことが多いこの宇宙に興味をもち、誰も行つたことがない場所、見たことがない景色を自分のものにしたくなつたからです。そんな宇宙飛行士になるには、様々な力が求められます。それは、任務を遂行できる知識や技能、チームの一員として活動できる協調性やコミュニケーション力、忍耐力、責任感、積極性、公平性です。これらの力を身に付けるために、今できる努力をして、JAXA宇宙飛行士選抜試験に合格したいです。そのために、今、頑張っていることや考えていることをいくつか紹介します。

まず、僕は今、ジャクサガスクールという所で宇宙について学んでいます。そこでは、元宇宙飛行士の大西卓哉さんが来られて、宇宙での仕事やこの仕事に就いた経緯など、僕にとつて

目が輝くような話をしてもらっています。他にも、宇宙環境や地球環境、ロケットについても学びました。まさに夢の時間です。そんな中で、一番心に残つた授業は、竹崎島冒険に行つたことです。太良町は、月の引力が見える町とも言われています。月の引力によって地球上で月に向いた面の海水が持ち上げられて満潮になることが分かりました。その時、学校の理科の授業で学習した月の満ち欠けが、自分の夢に直接関係していることに気づきました。もう一つ心に残つた授業があります。それは、ブラックホールについての授業です。人類初のブラックホールの撮影に成功した、本間希樹先生が来られて、ブラックホールの仕組みについて話を聞きました。未知のことがある、知らないことを知る喜びを味わうことができました。それでも、ブラックホールはまだわからないことが多いようなので、将来、自分で目にして、新たな発見を試してみたいです。

次は、学校生活から頑張っていることを紹介します。体育大会についてです。僕は、正直、人前で話すことが苦手です。でも、今年最後の体育大会ということもあり、度胸を付けたいと思ひ、副団長に立候補しました。残念ながら、副団長になることは出来ませんでした。応援団としてみんなの前で大きな声を出し、太鼓を叩き、最後まで自分の役割をやり抜くことができました。もちろんそれには、勇気がいったけれど、自分を变えようと必死に頑張りました。そしてもう一つ、閉会の言葉を任せてもらえたことです。閉会の言葉を考え、何度も練習をしたことで、本番ではあまり緊張せずに言うことができ、自身の成長を感じました。それと同時に、達成感がわいてき

て、小さな一歩かもしれないませんが、僕にとつては、勇気を出せた大きな一歩となりました。

これからの目標は、英語を話せるようになることです。国際交流が多い仕事なので、英語は話せて当然の言葉となります。今まで以上に高い壁を乗り越えることになるのは分かっています。その壁を乗り越えるために、努力し、そして、これから出会う多くの人達の支えに感謝しながら、目標を達成していきたいと思います。

僕が夢を叶えて、自分の目で宇宙から地球を眺めた時には、きつとテレビや図鑑で見るよりも何倍も美しく見えると信じています。そして、人の役に立ちたいです。

「この目で見てみたいー」
僕は、宇宙飛行士という夢を実現させ、人類の進展につながる発見を、必ずしてみせます。

命を奪う戦争

脊振小学校 六年 中島 杏奈

みなさんは今、ウクライナとロシアで戦争していることを知っていますか。イスラエルとハマスの戦争をしています。かつては日本も戦争をしていました。戦争はたくさん命がなくなったり、家がなくなったりして、悲しいことがたくさんあります。命を奪う恐ろしい戦争は、絶対にしてはいけないと私は思います。

日本が戦争をしていたころ、子どもも戦争の訓練をしたり、働いたりしていました。人々は、戦争に協力し、くらしはすべて戦争のために制限されていました。第二次世界大戦で亡くなった日本人の数は、約三百万人と言われています。さまざまな数で想像もできません。私は、怖くて心が痛くなりました。私は、修学旅行で被爆地長崎に行きました。原爆資料館では、熱で溶けたびん、丸こげになった人や馬の写真を見ました。原爆のこわさを感じました。また、山王神社には、原爆の爆風で一本柱になった鳥居がありました。強烈な爆風だったことがわかって、ますますこわくなりました。そして、特に心に残ったことは、語り部の陸門さんのお話です。兄弟の被爆した様子、長崎に生まれたことで差別を受けたお話を聞きました。悲しすぎるお話でした。原爆は、放射線を出します。人の体に悪影響をおよぼし、何年かたって症状が出て、今でも不安な生活を送っている人もいます。くらしや人々をぼろぼろにする戦争は、やってはいけません。

ウクライナとロシアの戦争、死傷者数は合わせて約五百万人になるといわれています。家をなくした人や家族を亡くした人もたくさんいます。イスラエルとハマスの戦争、最近のニュースでガザ地区にある病院三か所が空爆され、少なくとも二十七人が亡くなられたそうです。多くの人が亡くなったり傷つけられたりするのには、なぜ戦争をするのか疑問です。理解できません。

たくさん人の命を奪う戦争は今まで、何回も起きています。戦争が起こる原因は主に五つあります。「民族」の争い、「宗教」の争い、「資源」の争い、「政治」の争い、「領土」

の争いです。命より大切なものはありません。なぜ、このよう
なことで戦争が起ころのでしょうか。私はけんかをしたことがあ
ります。友達と考えが違うということが原因でした。そう考え
ると、身近に起きるけんかが大きくなったものが戦争なのかも
しれません。

私は今、おいしいものを食べたり、学校で勉強したり遊んだり
することができません。私には夢もあります。パティシエになる
ことを夢見て、日々がんばっています。ウクライナやハマスに
住む人たちは、どうでしょう。自由に遊んだり、食べたりする
こともできないし、夢なんて持つこともできません。

私達には「幸せに生きる」権利があります。人々の関係や生
活をぼろぼろにする戦争は、絶対にやってはいけません。
今戦争が起こっていることを忘れず、みんなが考え続けること
が大切だと思います。私は家族や友達、地域の方に思いやりの
気持ちを持つことはもちろん、自分と意見が違う人の気持ちも
考えていこうと思います。命を奪う戦争をこの世からなくして
いきたいと、強く思います。

戦争について考えたこと

神崎小学校 六年 高崎 乃 愛

私は、戦争をなくしたいと思います。なぜそう思うように
なったかというと、約二年前からロシアとウクライナの戦争が

行われているというニュースを見たからです。ロシアからの攻
撃で爆弾が落とされ、多くの人が命を落としています。大人だ
けでなく私より小さい幼い子どもたちまでが何人も命を落とし
ています。でも、それは外国の話だけではありません。日本も
昔、原子爆弾が落とされ、多くの人が亡くなりました。私は、
修学旅行で長崎に行きました。そこで、被爆者のお話を聞いた
り原爆資料館などに行ったりしました。原子爆弾についてのお
話では、六千度の熱線や瞬間風速四百メートルの爆風、がんの
発生率が高い放射線などの被害がたくさんあることを知りまし
た。当時の被害写真では、建物が吹き飛ばされて何も残ってい
なかつたり、全身やけどで亡くなっている人がいたりしまし
た。その光景は今では考えられない光景でした。私は、戦争を
体験したことはないから分からないけれど、ニュースでウクラ
イナの様子を見ると、道路に大きな穴が開いていたり、大きな
建物が崩れたりしていました。また、戦場に行つたきりの父親
と会えない子や両親を亡くした子もいるそうです。

私は、戦争で困っている人を助けるためにどのようなことが
できるか考えてみました。戦争はいけないことだと言うのは言
えるけど、私にできることは少なく、一人では何もできないと
感じていました。お金もそんなにないので助けられませんか。ど
うすればよいのでしょうか。多くの人が助けようと声をかけた
ら助けられるかもしれません。そのためには一人一人が助けよ
うと思わなければなりません。例えば、日本などの他国に避難
している人がたくさんいます。その人達とどのように接するか
も大切だと思います。避難してきた人達は、知らない国で不安

だと思えます。だから、みんなが優しく声をかけることが大切だし、私も声をかけたいと思います。

私は戦争が早く終わってほしいと思います。子ども達は辛い思いをしています。学校に通えていない子もいます。今の私達と同じ年齢の子で戦っている子もいます。そんな子ども達が安心できるように助けてあげるのが、戦争を体験している私達、日本の責任だと思えます。苦しんでいる、助けてほしいと思っている人は何万人もいます。家族と会えず、子どもなのに一人ぼっちの子もいます。そういうことを多くの人に知ってもらいたいです。修学旅行で被爆者の方が、「平和という言葉を言わなくなったら戦争が始まるスタートライン。」ということや「平和のバトンをつないでほしい。」などとおっしゃっていました。ですから、私は平和という言葉はずっと言い続けて、平和へのバトンをつなげるようにがんばります。日頃から姉や友人、周りの人達とけんかなどの争いをしないようにします。自分にできることを続け、みんなと力を合わせることで、戦争をはやくなくし、戦争という言葉がこの世の中から消したいです。

技能実習生との交流を通して

西郷小学校 六年 野田 幸輝

ぼくの父は、自営業をしています。3年前に技能実習生制度により、2人のベトナム人実習生がやって来ました。尾崎のア

パートに住み、3年間働いてくれました。

その間、ぼくは、正月や田植えの時などに交流を深めました。初めて会ったときは、少し緊張したけれど、ベトナム語やベトナムの伝統などを教わり、とても楽しく、有意義な時間を過ごしました。ぼくも、かんたんな日本語や、日本の文化の特ちょうなどを教え、ベトナムで広めてほしいと思いました。2022年、2人はベトナムに帰っていきました。ぼくは、別れるのはさみしかったけれど、このような体験は決して忘れな

いと心に誓いました。さらに、今年、新たにインドネシア人実習生2人が来日し、その人たちとも、交流を深めています。

インドネシア語はベトナム語よりも難しいですが、日本の技術をインドネシアに伝えてほしいという気持ちで交流しています。

今の時代、外国の人との交流はなくてはならないものになっています。その一方で、ニュースなどでロシアのウクライナ侵攻やイスラエルとガザ地区との紛争などで女性や子どもなど一般の人が亡くなっているということをよく見ます。

ぼくは修学旅行で長崎へ行き、戦争の悲惨さや原子爆弾のおそろしさなどを学び、二度と、この惨劇が繰り返されないようにと思ったので、このニュースなどを見て、早く終わってほしいと強く思いました。ぼくは、戦争が起る原因は、人と人とのコミュニケーションがうまくいかないことだと考えています。それは、国と国との話に限らず、個人どうしのこじれが原因であることもあります。

ぼくは、国籍に関係なく、コミュニケーションを通じて交流

することで、多くのことを学べることを知りました。そして、世界が、もっと相手を理解して、コミュニケーションのとれる人々であふれることを願っています。

外国人との交流は、自分のしよ来などにつながると思っています。そのためにも、今ある機会を大事にして、相手のことをよく知って過ごすのが、今を生きるべくたちに大切なのではないのでしょうか。

見守り隊の方々の力

仁比山小学校 六年 宮 崎 陽菜乃

「あいさつ」にはどんな意味があるのか、考えてみました。あいさつをしてもらえると、気持ちよくすつきりと朝を迎えることができます。そして、朝を気持ちよく過ごすためには、自分も元氣よくあいさつをすることが大切だと思います。また、安心・安全に登下校ができていることを考えた時、家族、そして、次に浮かぶのは、見守り隊の方々の顔です。

仁比山小学校の見守り隊は、十五年ほど前に作られたそうです。メンバーは変わっていますが、私たちよりも朝早くから外に出て、ずっと登校を見守ってくださいているのだと考えると、改めてすごいなと思います。

私のおじいちゃんは、つい最近まで見守り隊をしていました。おじいちゃんは、「子ども達から声をかけてくれたり、笑

顔であいさつをしてくれたりするだけでうれしい。」と言っていました。あいさつは、する人もされる人も良い気持ちにするまほうの言葉だと思いました。見守り隊の方への感謝の気持ちを表すためにも、私は、あいさつをずっと続けたいと思います。そうすることで、みんなが笑顔になれると思います。

今、私たちの地区の見守り隊の方は、いらっしやいません。見守り隊の方がいなくなったので、地区のみんなは困っています。私は、もっと笑顔で積極的にあいさつをしてあげればよかったと後悔しています。また、見守り隊の方が来てくださったら、悔いのないように、笑顔であいさつをしたいです。

下校中に会う見守り隊の方もいます。安全に横断歩道を渡れるように信号のところで待ってくださいっています。いつも会ったときは、誰にでも優しく声をかけたり、学校の話の聞いたりしてくださいいます。早く話したいので、みんなまで走って帰る時もあります。どんな時でも、話をしてくださる見守り隊の方は優しいなと思います。そんな見守り隊の方に「あいさつをしない子はいませんか。」と尋ねると、残念なことに「いる。」と答えられました。あいさつをしない人は、見守り隊の方のおかげで安心・安全に登下校ができていくことに気づいていないのかなと思います。だから、私は、毎朝下級生に「あいさつはきちんとしようね。」と声をかけています。私が声をかけることで、一人でもあいさつをする人が増えるなら、何度でも言えるような気がします。そんな私でも、相手によってはなかなか勇気が出ずに、あいさつできないことがあります。これから、だれにでもあいさつができる人になりたいと思っています。

中学生になると、自転車通学になるので、歩くときより、あ
いさつしづらくなるかもしれません。そして、見守り隊の方を
見かけることも減るのかなと思います。それでも、私は、見守
り隊の方々に教えてもらった「あいさつの大切さ」を受け継
ぎ、感謝の気持ちを伝えられるように、そして、周りの人を元
気にできるように、これからも誰にでもしっかりとあいさつを
していきたいです。

神埼の偉人から学ぶこと

千代田中学校 一年 田 中 希 采

皆さんは神埼出身の偉人をどれだけ知っていますか。私の母
校である千代田東部小学校校区には下村湖人という小説家の生
家があります。「次郎物語」という小説が有名で、次郎遠足や
次郎検定、六年生が「次郎物語」の劇を披露するなど下村湖
人のことについて学ぶ機会がたくさんありました。

他にも西郷地区出身の吉田絃二郎、仁比山地区出身の伊東玄
朴など、偉人と呼ばれる人がいます。なかでも、伊東玄朴は、
西洋医学の道を拓いた先駆者として有名です。私はこの夏に伊
東玄朴の足跡を辿る視察研修に参加しました。この研修で、伊
東玄朴が西洋医学の導入と日本医学の発展に貢献された偉大な
方だということが分かりました。江戸時代に西洋の新しい医学
を志すため、シーボルトより本格的に蘭学・西洋医学を学び、

西洋医学者の育成にも努めました。

また、大きな業績は他にもあります。種痘を普及させた人
でもあります。種痘は、今でいうとワクチン接種のようなイメー
ジです。研修では種痘所の跡を訪れましたが、一度火事になっ
て別の場所に移転したそうです。火事で断念することなく、江
戸の蘭学者と協力し、新たに種痘所が作られ、そこは後に西洋
医学所となり、今の東京大学医学部となっています。

伊東玄朴は十代の頃から医学を学び、漢方医が主流だった中
で、蘭学を取り入れました。新しいものを取り入れるというこ
とは、すぐく勇気がいることで、強い意志とチャレンジ精神が
ある人だったのだらうと想像します。もしかしたら、玄朴が行
動していなければ、日本の医学は発展が遅れていたかもしれま
せん。このような偉業を成し遂げた方が、同じ神埼出身という
ことはとても誇らしいことです。

私は皆とは違うことを主張し、自分から意見を言うことは少
し苦手で、自分の意見を隠して皆に合わせるしまうことがあり
ます。そして、言えなかったときは、心にひっかかるものが残
ります。また、新しいことがしたいと思っても、一步を踏み出
す時はとても勇気が必要です。

私は、中学生になり、バレーボール部に入部しました。バ
レーボールをしたことがなかったため、部活動に入る時、とて
も勇気がいりました。でも今は勇気を出してバレー部に入って
よかったと思っています。バレーボールはチームで協力して競
うスポーツです。ボールをつないで点数が入った時はとても嬉
しいです。バレー部に入ったことで、バレーボールの技術を学

ぶだけではなく、新しい仲間と出会うことができました。

私は、偉人について学んだことで、その功績を知っただけではなく、何事も前向きに初めの一步を踏み出さないと何も始まらないのだという精神も学びました。何もしないで後悔するより、失敗しても諦めずにやってみることが、前に進める近道だと思います。そして、偉業を成し遂げるには、一人の力だけではなく、様々な人の協力が必要なのだと思います。

私は、勇気を出してバレー部に入部したことで、新たな仲間と協力し、新たな世界が広がりました。少しの勇気と協力で、世界は変わります。神埼の偉人と呼ばれる伊東玄朴も、強い意志とチャレンジ精神で自分の道、医学の道を切り拓いていきました。

私はもつと神埼の偉人を知ってたくさんの人に広めたいと思います。そして、後悔しないように勇気をもって行動したいと思います。

皆さんも神埼の偉人について学び、少しでも多くの人に伝えていきましょう。そしてこの精神を引き継ぎ、神埼の発展につないでいきましょう。私たちが住むこの町が、未来も住みやすく明るい町であるために。

今、私にできること

脊振中学校 二年 宮 田 望 愛

私は今、中学二年生。世界のことでも社会の仕組みもよく知らない未熟な子供だ。しかし、時々思っていたことがある。それは「家族のためにできることはないのか。」ということ。

このようなことを考えたのは中学一年生の春の頃からだ。私は毎日のように部活に行っている。練習場所に行くために毎日、母や父、ときには姉にも送迎をもらっている。朝練があるときや大会のときには朝早くから送ってもらっている。しなければいけないことがあるにも関わらず、何もその事は口に出さず笑顔で送ってくれ、車から降りるときにも笑顔で「頑張つてね。行つてらっしゃい。」と言ってくれる。私はその言葉が大好きだ。こんなにも毎日家族に助けられている私に、何か恩返しはできないのか。負担を減らすことはできないのか。

そう考えたときに、毎朝母が早くから起きてお弁当を作っているのを思い出した。私は将来パティシエになるという夢をもつていて、台所に立って何かをすることがものすごく好きだ。そこで私は、母の負担を少しでも減らし、ゆっくり寝てもらおうとお弁当を作れる日は作ることを始めた。初めて作った日は、時間もかかり上手に作れなかったが、今では手つきも慣れ以前よりは上手に作れるようになった。しかし、母と比べるとまだまだだ。母からはよく、「無理してない。きつくない。」と聞かれるが、私はお弁当を作るのが好きだから一度

もそう思ったことはない。むしろ、作りたいという思いが強い。

私にはお弁当を作るときに大切にしていることがいくつかわかるが、一番は食べたときに笑顔になれて元気が出るようなお弁当を作るといふことだ。しかし、お弁当作りは母の負担しか減らせていない気がする。そこで、少しでも家族のみんなに笑顔になつてもらうため、練習が休みの日曜日や父母の誕生日、何か特別な日などは家族の好きなものや今食べたいというものを作っている。皆が笑顔になつていく瞬間はものすごくうれしい。だから私は、自分の夢を必ずかなえたい。

私の中で、パティシエはお菓子で人の心をつかみ、食べた人を幸せな顔にすることができると思っている。疲れているときや頑張った後のごほうびで食べるスイーツは格別においしく、ほっと一息つくことができる。だから、私はパティシエになり、家族にそしてたくさんの人においしいスイーツを作り、食べてもらいたい。今まで家族やたくさんの人にもらった愛情や幸せな時間を次は私が作りたい。

そしてもう一つ、私のしていることがある。それは、部活でよい結果を出すために頑張るといふことだ。なぜかというところ、毎日送迎してもらい、応援してもらっているから、大会でよい結果を出し、家族が私のために使っている時間を無駄にせず、笑顔で喜び合いたいからだ。

私は今、中学二年生。しかし、もう中学二年生。いつも助けられている私は、少しでも家族に恩返しするため「今、私にできること」を一つでも多く探したい。そして、母や父、姉の心の中に「あの時食べた味……。」というような思い出になつ

てほしい。この先、家族と過ごせる時間は決まっている。一日を大切に過ごし、一つでも多く恩返しをしてたくさんのお出を出を私の手で作っていききたい。

問題解決するために

神崎中学校 一年 末 吉 佑 芽

「私は正しい行動ができているだろうか。」

私はこんなことを考える機会が前より多くなりました。友達と話しているときや一人で行動しているとき、「ん、何か間違つたことしたつけ。」と急に不安になることがあります。

このように不安になる理由には「責任」が関わっていると考えました。

委員会の仕事でファイルが見つからず、一人で抱え込んで不安になつたり、イライラしたりした経験があります。各部委員会がある日までに提出しなければいけないファイルが見当たらず、三日ほど一人で探していました。

他のメンバーには声をかける気にもならず、一人で解決しようと考えていました。言つたつてやってくれないだろう、迷惑をかけたくないという理由からです。しかし、期限が迫ってくるにつれ、不安が大きくなり、逃げ出したい気持ちになりました。このまま溜め込んでいても変わらないので、勇気を出して先生にファイルがないことを伝えました。先生に相談したこと

で、委員長が説明してくれて解決しました。私はこの経験から、一人で抱え込まないことの大切さを知りました。他のメンバーに対して、きつと協力してくれないという勝手な思い込みや、人に相談したり、頼ったりすることへの苦手意識があったために、一人で苦しむことになったのだと思います。今までの自分は、困っている状況で、学校の友達や先生に自分から助けを求めることができませんでした。自分のことに誰かを巻き込みたくないと思っていたからです。実際には、先生に相談してみると簡単に事が進みました。もつと早く相談していれば悩まずに済んだのにと悔やみました。今後の私の人生を考えるときに、この出来事以上に深刻で大変な問題や悩みにぶつかるとは間違いないと思います。一人で抱えこみ、誰にも相談できません、命を絶つ人も多いとよく耳にします。だから私は、人に頼ることを上手にならないといけないと思います。

今回の出来事の中で私が貫いたことは「責任感」です。この責任感があったから苦しい思いをしましたが、投げ出さずに最後まで仕事をしたことは良かったと思います。あの時、面倒になって投げ出していたら、委員会にも迷惑がかかっていたはずですが。迷惑をかけていたとしたら、さらに自分のことを嫌になっただけでしょう。最後まで貫く、やり遂げることは苦しさや不安も伴うけれど、解決したときの達成感は、とても気持ちいいものです。

私の思う「正しい行動」とは、時と場合にに応じて、自分だけの力でやることと、人に相談したり、手伝ってもらったりすることをバランスよく使うことだと思います。人に責任を押し付

けることは良くないです。だからといって、心身が苦しくなるまで全てを一人で抱え込むことも良くないです。責任をもって一人でやろうとすることで強さや忍耐力が磨かれます。一方、人に相談することは、自分では思い付かないアイデアや方法などを発見することができます。これらをバランスよく使うことで、これからの生活における様々な問題を解決し、明るく前向きに過ごしていけると思います。まずは困ったことがあれば身近な友達に気持ちを伝えることを少しずつしてみようと思います。また、逆に私に相談してくる友達がいたら、その友達に寄り添えるような、心の広い人になりたいです。

私の福祉の原点

神埼清明高校 二年 田 中 心 裕

私が福祉について考え、学びたいと思うきっかけになった二つの出来事を、これから先も忘れる事がないよう、文に残しておきたいと思い今回この作文を書いた。

私には、曾祖父、曾祖母、祖父、祖母がいる。毎年、お盆とお正月はそれぞれの家に会いに行っている。私が中学一年生の時のお正月、私は一人の曾祖母の様子が今までと違ったのがとても気になった。その曾祖母は私が小さい頃から折り紙や編み物などをたくさん教えてくれていた、いつも笑顔で優しい大好きな曾祖母だ。いつも会ったら、「大きくなったね！早くこっ

ちにおいで。」と笑顔で迎えてくれていたのにその年のお正月は私のことをあまり覚えておらず、何度も何度も「あなたのお名前、なんだったかな？」と聞かれた。何度名前を教えても数分後にはまた名前を聞かれる。その時、私は母から曾祖母が認知症になった事を聞いた。私はどうして？という悲しい思いと、私のことは忘れないでほしかったという悔しい気持ちから少し苛立った。そしてその時また名前を聞かれたので、強い口調で返事をしてしまった。曾祖母は本当に申し訳なさそうな顔で「ごめんね、ごめんね」と謝った。私はその顔を見て冷静になりハツとした。曾祖母が何度も名前を聞いていたのはきっと私の事を思い出そうと頑張ってくれていたのだと思い、私はすぐに謝った。それから数年経った今も曾祖母は私に何度も名前を聞いてくる。その度に私は、「私の名前はみひろだよ。おばあちゃんの曾孫だよ。」と何度も自己紹介をしている。

私が初めて福祉について考えたのは、曾祖母の認知症がきっかけだ。曾祖母に何がおきたのか理解できず、どう話しかけたらいいのか、どう接したらいいのか全く分からなかった。

その時、私は福祉の知識を身に付けたいと強く思った。そして昨年の春、その第一歩として私は福祉の勉強ができる高校に入学した。

高校に入り、初めて福祉の勉強をした。福祉と一言で言っても学ぶことはたくさんある。医療保険制度や年金制度などこんな事も勉強しなくてはいけないの？と思う程たくさんある。覚えなくてはならない。座学だけではなく実技のテストもある。四月には三十人程いた福祉系列の仲間が、秋頃には十人以上、

他の系列へうつって行った。私もベッドメイキングのテストになかなか合格できず、私は福祉に向いていないのかもしれないと悩んだ。そんな時、やはり福祉の勉強を頑張りたいと思う出来事があった。それは祖父との突然の別れだった。

高校一年生の秋、病気を患っていた祖父が亡くなった。四日前まで私は祖父と会話をし、笑顔も見た。しかし、会いに行つた翌日、祖父の容態が急変した。急いで会いに行つた時には呼吸が苦しそうで目も閉じたままだった。私は初めて大切な人の死に直面し怖かった。祖父の身体をさすったり、声をかけたりしたかったが何も動けなかった。これから先も、祖父母や両親との別れは必ずやってくる。そんな時今回みたいに何も動けないのは嫌だ。悔いの残る別れはしたくない。やはり福祉の勉強をしつかりしておきたいと私はその時改めて思った。

祖父との別れから一年が経ち、私は今、高校二年生になった。毎日の勉強も介護実習も大変な事ばかりだけれど、私は今、とても充実した毎日を送っていると胸を張って言える。そして、福祉の道を選んでよかったと心から思っている。

これから日本は今まで以上に高齢化社会になっていく。お年寄りの方に、「とろい」、「きらい」などひどい言葉を浴びせる人もいる。しかし、今の豊かな暮らしができてきているのは高齢者の方々のおかげだということを忘れてはいけない。今は若い私たちも必ず老いる時は来る。私は、福祉は小さい頃にお世話になり、助けてもらった方々への恩返しだと思っている。赤ちゃんも子供も大人も高齢者もみんな助けは必要だ。みんなを助け合える素敵な世の中になることを私は強く願う。

夢のヒーロー

神埼高校 一年 久野龍馬

私の夢は、人に夢を見せる、そんな俳優になることです。

幼い頃から私に夢を見せてくれたのはヒーロー達でした。仮面ライダー、ウルトラマン、スパイダーマン、アベンジャーズなど、僕の人生においてとても大きな存在です。特に思い入れが強いのは仮面ライダーです。物心つく頃には既に仮面ライダーを見ていて、たくさん思い出があります。ダブルや、オーズ、ウィザード。鎧武にドライブにエグゼイド。さらに、初代やV3、スーパー1、BLACKなど。ストーリーは知らなくても、名前は知っていると人は多いと思います。

何故、仮面ライダーにハマったのか。最初はカッコいいと言う子供らしい理由からでした。しかし人の心の機微を理解できる年齢になってからは、とても奥が深いということに気づきました。デザインやサウンド、映像などの表面的なカッコよさだけではなく、ストーリーがしっかりしていることが魅力だと感じます。あまり知らない人にとって、仮面ライダーは「強さを挫き、弱きを救う」というようなイメージだと思います。でも、それだけではありません。平成以降の仮面ライダーは、等身大の「生きている」人間がヒーローになり、またはヒールになり、戦いの中で葛藤しながら様々なことを学んで、最終的に成長していく…正義VS悪のヒーロー活劇ではなく、人間VS人間の重厚な人間ドラマがあります。ライダー同士で争い合ったり、

悪い奴がライダーになったり、生きる意味を探すライダーもいたり…。このように、仮面ライダーは子供向けと一概に言えないほど話が作りこまれています。どんなヒーローも完璧ではなく、どこか欠点があり、それを克服したり、それとも受け入れたり。何度倒れても諦めずに立ち向かう『仮面ライダー』に、私は憧れ、自分もこのようなヒーローを演じる俳優になりたいと考えるようになりました。

現在、この夢に向けて、映画やドラマなど作品を見て勉強しています。さらに高校に入学し、放送部に入学しました。腹式呼吸や滑舌を意識した発声練習を毎日しています。また、本を読んで気に入った場面を登場人物の心情や、情景が伝わるように読む朗読にも挑戦し、大会に出場しました。現在は、来年に行われる放送部の大会に向けて、ドラマの脚本作りに挑戦しようと考えています。将来的には映画関連の学部のある大学に進学して、俳優を目指しながら監督や脚本家など、マルチに活躍できる人になりたいという目標を掲げて、日々の学習を頑張っています。やがて、あの時憧れたヒーローになるという夢を追いかけて走り続けます。

子供向け番組を見ていけると言うのと、「その年でまだそんなの見てるの?」と言われることがあります。でも私は、恥ずかしいと思つたことは一度もありません。私はこれからも好きなものを好きと胸を張っていきます。最後に、皆さんに伝えたいことがあります。ヒーローが好きなのは、必ずヒーローになれる。

これからの人生

西九州大学 二年 中野晃成

僕は、「不登校」でした。

僕の今までの人生を簡単に言い表すなら、「人の顔色を疑う人生」です。周りのありとあらゆる人に嫌われないように、怒られないように、褒めてもらえるように、生きてきました。そんな中幼いころから、料理を作ることが好きだった僕は、「将来は食に関わる仕事をしたい」と志し数年、中学受験をして地元でも有数の中高一貫校へ入学しました。毎日朝早くから勉強をして、部活をして、家につくのはいつも日が暮れてから。家では、大量に出された課題を何時間もかけて済まし、テスト前は朝方まで勉強。土日は模試か部活。先に中学生になった兄を見ていて、大変そうだとは思っていたけれど、それまで、大した努力もしてこなかった自分にはあまりにも過酷な環境でした。それでも、仲のいい友達や優しい先輩のおかげで、充実した学生生活を送っていました。

中学校に入学して9か月が経った1月のある日、ふと学校に行きたくないなと思い、ストーブで温めた身体に体温計を挟み、熱があると嘘をついて学校を休みました。たった一日だけだからと軽い思いで眠りについた僕は、次の日の朝、休んだ1日分の勉強が遅れていることから、授業であてられた時答えられずに怒られたらどうしようということや欠席したことでグループ活動に参加できなかったから嫌われてないかどうかとい

うことが頭から離れなくなり、その日も結局休んでしまいました。次の日もその次の日も、日が経つにつれて不安だと思ふことが増えていき、気づいたら不登校になっていました。数か月たったころには、保健室に通えるまで回復しましたが、その後の中学生活で教室に顔を出せた回数は片手で数える程度でした。中高一貫校だったので、そのまま高校に上がったのですが、状況は変わらないまま、単位が足りず通信制高校に転校しました。

当時は、不登校になった原因を言語化することができず自暴自棄になっていました。何度も自殺を考え自分の身体を痛めつけたり、急に泣いたり精神的にも壊れていました。けれど、このままではいけない、友達と笑いあっていた頃に戻りたいという気持ちはずっと心の中にあり続けていました。何をすべきなのかをずっと考えて考えて、まずは人と関わりを持つことからと思い、飲食店でバイトを始めました。何年もの間、人との関わりを絶つてきた僕にはあまりにも大変でしたが、人のやさしさに触れて、徐々に目を見て話ができるようになって、自分から話を振れたりできるほどにまで成長しました。いつしか、人に対する気持ちにも変化を感じ、恐れや不安といった感情は徐々に薄れていきました。

そうして心機一転、人との関わりを求めて、西九州大学に進学した僕は、「将来は食に関わる仕事をしたい」という幼い頃の夢を追い、健康栄養学科で勉強をしています。数年前までは考えられなかったですが、今では人前で発表したり、リーダー的役割をこなしたりすることが一番のやりがいだと感じていま

す。もちろん大変なこともあります。たくさんの友達とバカなことをしながら、毎日楽しい日々を過ごしています。

長々と話してきましたが、僕の話聞いてくださった皆さんは、これから進学や就職などたくさんの経験をしてみてください。その途中で落ち込んだりしんどくなったりなど人生うまくいくことばかりではありません。でも、そんなしんどいときは今回の僕の話の思い出してほしいです。きついときは休んだっていい。寄り道したっていい。人生80年の中でその出来事はたったの数年、数か月、数日なのだから。また、周りに落ち込んでいる子がいたら、何気ない会話で寄り添ってあげてほしい。そうして皆さん一人ひとりの人生を明るく輝かしいものにしていく。お願いします。

私の将来の夢

二十歳代表 本間 遼平

私の将来の夢は、農業の力を使って神崎市を活性化することです。私は神崎市が大好きです。自然が豊かで、地域特有の食べ物や伝統がたくさんあり、そして何よりも優しく親切な地域の人がたくさんいらっしゃいます。そんな神崎市ですが、少子高齢化の影響を大きく受けています。私の住んでいる脊振町では、小学校の新入生がとて少なく、複合学級になっている学年もあるほどです。このままでは自分の母校がなくなってしまう

うのではないかと覚えています。そして、自分自身も中学校時代は同級生が女の子一人で、同性の同級生がいないのをすごく寂しく感じる経験をしており、私の大好きな街が活気を失いつつある状況、そして自分のような寂しい思いをする学生を無くしたいという気持ちから地域創生に興味を持つようになり、神崎市の活性化を自分の将来の夢として意識するようになりました。地域創生といっても地域の活性化には様々な方法があります。私が考えているのは農業や地元産業と結びついた形の活性化です。神崎市には神崎そうめんや菱の産業、九年庵など多くの特色があります。それらを最大限に活用しながら、農業関連のイベントなどで地域を盛り上げていきたいと考えています。

こうした計画をもっと具体的に、実行に移せるように私は、佐賀大学の芸術地域デザイン学部地域デザイン学科に進学しました。自分の夢を叶えるため意気込んで大学に進学しましたが、正直にいうと大学の授業に意義を見出せないことや、自分の想像していた授業内容ではないものも多かったです。自分が何のために大学に進学したのか、進学しない方が良かったのではないかと悩む時期もありました。そうした状況を打開するために私は、有田町であっている地域創生系のインタビューに参加しました。有田町の伝統産業である有田焼とイベントを結びつけて地域一体となってイベントをやっており自分の考えている神崎市の活性化のお手本となるようなものでした。特にインタビューで、大学で学んだ知識を実際に試してみることができ、学んだことをただ知識として蓄えるのではなく実践してみても

こからフィードバックを得ることでより知識が身につくだけでなく、そこから改善点や重点的に学ぶべきことが分かることに気付かされました。また、同じインターン生として同じ地域創生に興味のある人とたくさん話すことで、斬新な考え方を得たり自分の目標を明確にしたりすることができました。実際に有田町で地域創生を行ってきたNPO法人の方々から自分の考えにアドバイスをもらえたことはとても嬉しかったです。積極的に行動を起こすとこんなにも学べることもあるのだと驚きました。自分を成長させてくれる環境を作るのは自分自身であり、自分からどんな活動に参加し能力を身につけていくことが自分の将来の夢を叶えてくれると感じました。

日本全体で少子高齢化は大きな課題であり、神崎市だけでも様々な課題が複雑に絡み合っており活性化はとても難しいものであると思います。正直今の自分の力では全く達成出来そうにないように感じますが、自分の神崎市を誇りに思う気持ちや、自分のような寂しい思いをしてほしくないという強い気持ちをしっかりと持って自分の夢を叶えられるよう努力していきたいと思っています。

夢をかなえるために

千代田東部小学校 五年 園 田 悠 斗

「プロ野球選手になる。」それが、ぼくの夢です。ぼくが野球を始めたのは二年生の終わりごろでした。友達がしているのを見て、楽しそうだな、やってみたいなと思いました。野球をやっていくうちに、プロ野球選手になりたいという夢をもちました。そのきっかけくれたのは、WBCでも活躍した大谷翔平選手です。大谷選手は、走攻守そろっていて投手では十勝、打者では四十四本塁打を放つすごい選手です。世界的にもすごい選手なのに、常に努力をし続ける姿にあらがれます。

ぼくは、プロ野球選手になるために大切にしていることが三つあります。一つ目は、毎日お父さんと自主練習をしていることです。主にティーバッティングやボールころがし、室内練習をしています。ぼくは、これまであまりヒットを打てませんでした。そんな時、なんで練習しているのに打てないのだろうとくやしい気持ちになります。けれど、毎日練習をして、この前の大会では、五試合五安打でした。しかも決勝では、サヨナラヒットを打ちました。練習の成果がでると、自信がきます。すぐに成果が表れることばかりではないけれど、継続することが大事だと思います。

二つ目は、生活面での礼儀を心がけ、ボランティアを進んですることです。ぼくは、人に会ったら必ずあいさつをしています。相手を見たり、礼をしたりして、気持ちの良いあいさつを

心がけています。ほかにも、ごみ拾いやスリッパならべをしています。あの大谷選手も、試合中にさりげなくごみを拾っています。このようなことをしたら、みんなが気持ちよく過ごせるし、運もついてくると思います。

三つ目は人とのつながりです。自主練習に付き合ってくれる両親、いつも応援してくれる祖父母、一生懸命指導してくれるかんとか、コーチには、感謝の気持ちを忘れないようにしています。そして、いっしょにがんばってくれるチームメイトは大事な仲間です。チームメイトは、よきライバルでもあります。友達が試合で活やくすると、自分も負けないうくらい活やくしたという思いが強くなり、練習にも力が入ります。また、試合でぼくが打てなくても、みんながカバーしてくれたり、逆にぼくが打った時は、みんな喜んでくれたりして励まし合えるよい仲間でもあります。

ぼくたちは、もうすぐ新チームがスタートします。まずは、学童大会で優勝することが目標です。そして次は甲子園、さらにプロ野球選手へと、夢に向かって進んでいきたいです。これからは練習を継続し、心を磨いて、みんなに夢を与えるプロ野球選手になりたいと思います。

これからのスマートフォン問題

千代田中部小学校 五年 川原 悠 聖

ぼくは、スマートフォンを使う機会が多くあります。だけど、世の中には小学生にはスマホはいらぬという意見もあります。反対に、小学生でも今の時代はスマホを持つてもいいだろうという意見もあります。ぼくは、スマホやタブレットを小学生に持たせてもよいという意見に賛成です。

賛成だと考える理由はたくさんありますが、その中でも主な理由は三つです。

一つ目は、スマホがあれば、いざというときに安心だからです。例えば、雨が降りそうなとき、忘れ物をしたとき、迷子になったときなど、スマホで連絡をとって解決できることがあります。ぼくのいとこがスマホを持たずに遊びに行き、家のカギを忘れてしまったことがありました。誰にも連絡できない状況だったので、交番に行きやつと家に帰ることができたそうです。「スマホがあれば、すぐに帰ることができたのに。」と思ったそうです。このように、いざというときにスマホを持っていれば子どもも安全になると思います。

二つ目の理由は、スマホがあれば友達との交流が深まり、もつとよい関係になれると思うからです。あまり仲良くなかった友達でも、同じスマホゲームをして話をしたり、SNSで交流するなど、友達との仲を深めることができ、一石二鳥ということもあり得ます。実際ぼく自身も、友達と同じゲームをして

いて、ちょっとうれしい気分になったことがあります。しかし、SNSを使うことよって怖い思いをしたり悪いことに巻き込まれたりすることがあるかもしれません。そうならないように、親と使う約束を決めて守ったり、親に管理してもらったりすれば、前もって防ぐことができると思います。

三つ目の理由は、スマホがあればいつでもどこでも楽しく過ごすことができるということです。ぼくが、お父さんと一緒に大きな病院について行ったことがあります。待ち時間が三時間くらいありました。とても長い待ち時間でしたが、ぼくはスマホを持っていたので、その長い時間を楽しく待つことができました。その一方お父さんは、傷が痛みずっと待つことがとてもつらかったそうです。日常の生活の中で、長く待つということはたくさんあります。例えばバスや電車の中、レストランなど。大人でも待たないといけないときはもつとあると思います。そんなときでも、快適に過ごすことができるアイテムがスマホだと思います。様々な場面でもが快適に過ごすことができる便利な道具だと思います。

子どもにスマホを持たせたら、子どもの心や体に悪い影響を与えてしまうと言う人がいるかもしれませんが、でも、今は昔とは違い、大人のほとんどが仕事でもスマホを使っている時代です。そして、子どもがパソコンやタブレットを使えるようにしていく時代です。生活や仕事の中でスマホは必要不可欠です。子どものうちからスマホの正しい使い方を学んで身に付けておくのも大切なことだと思います。

ぼくもスマホを持っているとは思いますが、やはり、スマホの

使いすぎや、危険な使い方をするのは良くないと思います。親としっかり約束を決め、「使いすぎない」「正しく使う」ということを守って、上手に使うことができればいいと思います。ぼくは、とても便利な道具として安全に使うことができるように、親としっかり話し合っけてルールを決め、楽しく快適にスマホを使っていきたいと思います。

こんな神崎市にできたらいいな

千代田西部小学校 五年 牛 島 彩 花

みなさんは、SDGsを知っていますか。SDGsとは、世界中にある環境問題、差別、貧困、人権問題といった十七の課題を、世界中のみんなで二〇三〇年までに解決していこうという計画・目標のことです。世界全体の課題なので、もちろん私たちも取り組まなくてははいけません。そこで、神崎市でもできることを考えてみました。

まず一つ目は、ポイ捨てをなくすことです。私は先月地域のごみ拾いのボランティア活動に参加しました。そこで気付くことがありました。たばこやペットボトル、空き缶などがたくさんあったことです。なぜこんなごみがあるのかなと考えていると、数日後学校から帰っていると、車の窓からポイ捨てをしている人を見かけたのです。私は、そのとき、なぜこんなことをするのだろうかというなんとも言えない気持ちになりました。私

ががんばってごみ拾いをしたのに……と思いました。そこで私は、ポイ捨てをなくすための方法を考えてみました。まずはみんながボランティア活動に参加し、町中をきれいにすることだと思っています。ごみが落ちていけば、ポイ捨てをしている人たちは捨てても大丈夫だと思うかもしれませんが、ごみが落ちていなければ、きれいな場所にポイ捨てをする人はいないと思うからです。それに、みんながボランティア活動に参加することで、どれだけのごみが落ちていなのか、それを拾う人の大変さも感じる事ができると思うからです。また、登下校や散歩をしているときに、たくさんの方のポスターを見かけます。私は、ポスターを見て心が動かされることがあります。みんなの心が動くようなポスターを町中にはって、ポイ捨てゼロ、ごみゼロの神崎市をみんな目指したいです。

SDGsを進めるために、神崎市でできることの二つ目は、差別をなくすことです。学校で「いじめ」について何度も考えました。その中で、自分が何気なく言ったこと、行ったことが人を傷つけてしまうことがあること、自分はその場を楽しませようとして相手に言った言葉が、相手は笑っていても心の中で悲しんでいるかもしれないことをみんな考えました。いじめをなくすためには、相手の気持ちを想像することが大切だと思えます。そして、差別をなくすためにも同じように、相手の気持ちを想像することが大切だと思えます。みんなが相手の気持ちを想像してから行動すると、いじめや差別で悲しい思いをする人はいなくなると思います。

SDGsを進めるために神崎市でできることを私なりに考え

ました。ポイ捨てがなくなり、差別もなくなれば、神崎市は環境も人々の心もきれいな街になると思います。そんな神崎市に私はしたいです。

将来してみたい仕事

千代田西部小学校 五年 中 島 桜 心

私は、将来警察官や看護師など、人を助ける仕事をしてみたいと思っています。そう思う理由が四つあります。

一つ目は、小学五年生から保健委員会に入っていることです。保健委員会では、全校のみんなに熱中症予防の放送や、手洗いのイベントをしています。私は、最初こんなことをして本当に意味があるのかなと思いました。しかしやってみると、全校のみんなが熱中症に気をつけたり、手洗いを意識的に行ったりしてくれました。私は、とてもうれしかったし、やりがいを感じました。

二つ目は、見守り隊の人たちです。私が学校に行くときに、毎朝見守り隊の人たちが横断歩道に立ってくれています。見守り隊の人たちが立ってくれているからこそ、私たちは安全に登校できているのかなと思います。地域の安全を守る仕事はとてもやりがいがあるのだらうと思います、私もこんな仕事をしてみたいと思います。

三つ目は、私の姉です。私の姉は、将来助産師になるために

大学に行って頑張っています。姉と助産師について話していると、助産師という仕事は命の誕生にかかわる大切な仕事だと感じました。姉は、きつといっぱい努力をしているのだと、一緒に暮らしていて感じます。だから、私はもつといろいろ姉に聞いたり本を読んだりして、姉みたいになれるように努力をしたいです。

四つ目は、テレビ番組です。テレビには、医療や警察、弁護士などいろいろな仕事の番組があります。そこで興味がある仕事を調べてみました。医者は、けがや病気のとくに診察をして、治療をします。警察は地域の安全を守ったり、事件や事故が起こったときに助けてくれたりします。弁護士は、困ったときに法律にもとづいて助けてくれます。テレビ番組で、そんな仕事の方たちに救われている人を何度も見ました。私も、人を助ける仕事をしたという気持ちが強くなりました。

しかし、人を助ける、誰かの役に立つという仕事はとても大変だと思いますが、それと同時に、やりがいもたくさんあると思います。まだ具体的にどんな仕事につきたいかは決めていませんが、人を助ける仕事をしたという夢は、必ずかなえたいです。そのために、これからたくさん勉強をして、ほかに人を助ける仕事にはどんな仕事があるのかを知っていき、将来の夢に一步でも近づいていきたいです。

日本で有名なバレーボール選手になるために

脊振小学校 五年 末 次 大 空

「パアッン」

日本代表西田選手のスパイクが決まった。会場はとても盛り上がり、ぼくはとても興奮した。この時、ぼくの夢が決まった。ぼくの将来の夢は、バレーボールの日本代表になることです。

ぼくは、今、神埼市の脊振という町に住んでいます。脊振は山の中にある小さな町で自然ゆたかなところです。そんな小さな町でぼくは、剣道をしています。なぜ、剣道をしているのかというと、気持ちの強いバレー選手になりたいからです。剣道とバレーは全然違うスポーツですが、精神面がかなり大切という面では共通点があります。剣道など「道」がつくスポーツは、とても礼儀が厳しいです。例えば、正座をして礼をする礼座や、試合前後のあいさつであるそんきよなどの礼儀があります。この礼儀によって心が鍛えられています。また、先生の厳しさからますますには投げ出さないと心が身についています。

西田選手にあこがれたと冒頭で言っていましたが、そのころぼくは小学三年生でした。当時のぼくは、高校生のお兄ちゃんみたいな強くてかっこいい剣道選手になりました。しかし、二〇二一年にテレビで、ワールドカップのバレー、アールゼンチン戦を見て感動しました。西田選手のスパイクがきつかけとなり、勝つことができたのです。その試合を見てから、

ぼくの剣道に対する姿勢もガラツと変わりました。それまで、練習をすると、きつさばかり感じていましたが、精神面の大事さに気付いて、声を誰よりも出そうと意識したり、きびきびと動いたりとだらけずに練習に取り組むようになりました。剣道は、厳しいスポーツですが、チームメイトや先生との会話の際や、技がうまく決まった時に楽しさがあります。西田選手もスパイクが決まった際に、とてもいい笑顔でした。このことから、スポーツを楽しむことも大事だと気付いたので、ぼくも、剣道を楽しんで取り組もうと思います。

剣道だけでなく生活面も頑張っています。バレーは剣道と違い、集団競技です。人との関係がとても大事になります。ぼくはバレーでキャプテンのように人を導く立場になりたいと思っています。そのためには人に優しくしたり、仲間だけでなく自分にも厳しくしたり、人のお手本となる行動をしなくてはなりません。今のぼくはまだこのような行動をとれていないと思います。これから学校生活で敬語を使う、ほかほか言葉を使い、友達のことを傷つけない、きびきびとした行動をとろうと意識します。

ぼくの将来の夢は心の強いバレー選手です。そのために、部活の剣道や学校生活、家での生活の中で心を強くしなければいけません。自分に厳しく生活できるように心掛けていきます。

ぼくの尊敬するお兄ちゃん

神崎小学校 五年 八 谷 快 智

ぼくが尊敬しているのは、お兄ちゃんです。ぼくもお兄ちゃんも野球をやっています。お兄ちゃんは、埼玉県の野球強ごう校に野球留学をして、甲子園にも出場しました。ぼくは、そんなお兄ちゃんにあげられて野球を始めました。

最初は、なかなかボールが捕れなかったり、打てなかったりしたので、野球がいやになったこともありました。そのとき、お兄ちゃんはゴロの捕り方や、バッティングのこつをていねいに教えてくれたり、はげましてくれたりしました。くり返し練習をしていくと、少しずつ自分が上手になっていく実感がありました。それは、捕れなかった難しいゴロが捕れるようになり、打てなかったボールが打てるようになっていったりしたからです。すると、あんなにいやだった野球が少しずつ楽しくなっていました。

ぼくがお兄ちゃんのプレーを見ていて特に好きなのは、ライオン際の打球に飛び込んでボールをキャッチして、ノーバウンドで送球するプレーです。お兄ちゃんはサードを守っているのですが、守備ではそこが一番の見せ場です。試合中、サードに打球が飛ぶと、お兄ちゃんはどうなプレーをするんだろうとわくわくします。バッティングも、東京六大学リーグのレベルの高い投手相手にも、ひるむことなく立ち向かいます。チャンスに強いので、みんなからとても頼りにされています。チャンスでお

兄ちゃんに打席がまわってくると、今日はどんなバッティングが見られるんだろうとわくわくします。お兄ちゃんが活躍すると、自分のことのようにうれしくなるし、ほくももつと頑張ろうと思えます。

ほくは今、チームでセカンドを守っています。お兄ちゃんと同じ内野のポジションだけど、同じようなプレーはまだまだできません。だから、お兄ちゃんからもらったアドバイスを忘れず、プレーを見習ってこれから練習を頑張り、いつかあこがれのお兄ちゃんを超えるような選手になりたいと思います。

いろいろなことを学べた自然教室

神崎小学校 五年 宮 副 恭 輔

十月に、五年生全員で、北山少年自然の家に宿泊学習に行きました。この宿泊学習を僕の学校では、自然教室と呼びます。

僕は、この自然教室で様々なことを学びました。僕は班長の役割を任されたので、班のみんなのことを第一に考えて、班長としての仕事に取り組みました。

班長の仕事として、班のみんながまとまって行動できるように声を掛けたり、人数確認をしたり、集合場所でメンバーを並べたりしました。班のみんながスムーズに活動できるように、早めに指示を出すことを心がけました。

お風呂では、湯船に入る前に体をお湯で流してから入るなど

のマナーを学びました。その他にも、施設で使った道具は、次に使う人のことも考えて、きちんと整理してもとの場所にもどすことも心がけました。また、楽しむ時も時と場合を考えて楽しむことが大切だと学びました。皆で大きな声を出して楽しむ場面も、人の話を真剣に聞く場面も、どんな態度がその場に合っているかを考えて過ごすことができました。

野外炊飯では、焼きそばをみんなで作りました。僕は、野菜を切る係だったので、野菜をしっかりと洗いました。洗い終わったら、学校の授業で習った野菜の切り方を思い出しながら、みんなが食べやすい大きさに野菜を切りました。焼きそばをいためる係が二人でいためてくれていたけれど、煙が目に入って痛そうにしていたので、班のみんなで交代しながら焼きそばをいためることにしました。何回も交代していたためだと、焼きそばのいいにおいがしてきたので、ほっとしました。最初、焼きそばをいためていた友達が、

「手伝ってくれてありがとう。」

と、優しく言ってくれたので、とてもうれしく思い、みんなで協力してよかったなと思いました。班のみんなが、焼きそば作りのそれぞれの仕事をきちんと実行したので、今までで、一番達成感が生まれました。おかげでみんなが、

「とてもおいしい！」

と言える焼きそばを作ることができました。

僕は、この自然教室を通して、周りの人の心が気持ちよくなるマナーをこれからも続けていきたいと思いました。

理由は、マナーを守っている人を見ると、僕も気持ちが

よくなったからです。僕がマナーを守っていると、僕の行動を見た人が気持ちよくなり、それを続けていると、周りの人もマナーを守るようになると思います。だから、マナーを守るということをこれからも続けていきたいと思いました。

また、友達と助け合って何かができた時の達成感がどれだけ良いものかがよく分かりました。この経験をお忘れずに、友達と協力し合って生活していきたいと思っています。

自然教室を通して学んだこと

神埼小学校 五年 小 森 絢 心

私は、北山少年自然の家で行われた、自然教室に参加しました。この二日間で学んだことは、二つあります。

一つ目は、友達と協力することは楽しさにつながるということと学びました。普段一緒にいる友達との時間は、楽しく、あつという間に過ぎていきます。しかし、自然教室での時間は、少し戸惑いと不安を感じることがありました。それは、同じクラスではあるけれども、普段一緒にいない友達とも協力しようという、班の組み方だったからです。班の友だちとうまく話すことができるのか。協力し、楽しく過ごすことができるのか。自然教室が始まる前から考え込んでいましたが、その不安な気持ちは、すぐになくなりました。それは、一日目の最初のフィールドビンゴで、道が分からなくなった時のことです。自

然と班のメンバーに、

「どっちに行けばいいと思う？」

と互いに聞き合い、協力することができました。歩きながら、学校でのことを話しているうちに、仲も良くなり、いつの間にかゴールに着いていました。班のメンバーとも仲良くなれ、二日目の野外炊飯には、困ったことがあれば、みんなと協力し合い、楽しく焼きそば作りをすることができました。みんなで作った焼きそばは、とてもおいしかったです。

二つ目は、役割の大切さを学びました。私の役割は、班長で、班のメンバー全員の責任をもたなければいけません。今まで私は、責任をもつ役割をした経験があまりありませんでした。しかし、今回は、自分から、

「班長をしたい！」

と言って、班長になりました。実際に班長がどんな仕事をするのか聞いてみると、班長会議に参加する、先生への連絡・報告等、どんなことにも責任があることばかりでした。最初は、面倒だなと思っていましたが、班長をしていくうちに、「この仕事は、私が任されているんだ。」と思うようになり、がんばりることができました。最初は、自分に班長という役割ができるのか、とても不安でした。しかし、実際にやってみて、私が思っていたこととは少し違いました。一人で頑張るのではなく、班のみんなと協力してすればいいということが、分かったからです。私は、班長という役割をやってみて、責任をもつことの大切さを学びました。

クラスには、同じ班になった友達以外にも、たくさんの友達

がいます。これからの学校生活では、今回の自然教室で学んだように、話したことがない友達へ、自分から積極的に話しかけていこうと思います。クラス全員との仲を深め、クラスのリーダー的存在になりたいです。そして、今はまだ自信はないけど、六年生では、自分の中で力をいっぱい出して、学校全体を引っ張っていけるようなリーダーになりたいと思います。

私が住みたい神崎市

神崎小学校 六年 八坂 莉緒

私が住みたい神崎市は、安全で安心して暮らせる町です。そして、人々が優しく、ゆずり合い笑顔があふれる市にしていきたいです。そのために、みんながルールを守ったらいいのではないかと私は思いました。

私の周りでは、信号を無視する人、道路に飛び出す人、順番を守らない人がいます。今のままだと、安全に暮らせなくなり、不安でいっぱいになってしまいます。

例えば、信号を無視すると、事故になり、大きなけがをします。そうすると、安全ではありません。道路に飛び出すと、車は急に止まれないので、大きな事故、もしかすると、人が亡くなることだってあります。そうなったら、周りの家族や友だちは、とても悲しい思いをしなくてはなりません。また、お店でレジに並んでいたとき、順番を守らない人がいて、不安になっ

たこともあります。神崎市には、ゆずり合ったり、優しく人に接したりする人は、たくさんいますが、ルールを守っていない人もいることが分かります。そこで、私から三つのことを提案したいと思います。

信号を無視しないように、信号をよく確認して進むようにしたらいいと思います。標識があるならその通りのことをしたら、ルールを無視することはなく、みんなが安全に過ごせる市になると思います。

道路に飛び出さないように、左右確認をし、「右、左、右」を見て、車が来ていなかったら、進むといいと思います。その時、車が来て止まってくれたら、おじぎをして、感謝の気持ちを伝えると、その後ゆずり合いができてくると思います。

列に並ぶときは、相手の気持ちや状況を考えて行動することを心がけたらいいと思います。例えば、妊婦さんなどの大変そうな人にはゆずるなどのことができればいいと思います。私たちは、道路や施設などの公共の場では、周りのことを考えて、生活することが大切だと気付かされます。

他にもルールはたくさんあります。自転車のヘルメットは、今、大人もかぶらないといけなくなっています。でも、ヘルメットをかぶっていない人を見かけます。ヘルメットは、もし事故にあったとき、頭を守ってくれます。大きなけがをするのではなく、けがを軽くしてくれます。だから安心して、自転車に乗ることができます。

このようなことをすると安全で安心して暮らすことができます。私は、様々なルールが安全、安心にしてくれていると思

ます。そして、マナーを通して、ルールは、みんなをしばるものではないと感じるようになりました。人々が、優しく、ゆずり合うようになったらいいと思います。

私もルールをしっかり守って、車が止まってくれたら、おじぎをしようと思います。ルールは生活を支えてくれているのです。

いじめのない神崎市

神崎小学校 六年 馬場 めい

私は、「いじめのない神崎市」にしたいと思っています。私は、一年生か二年生くらいとき、いじめではないけれど、いやな言葉を言われました。言われたときは、とてもいやな気持ちになりました。「どうして、そんなことを言うのかなあ。」と思いました。きつと、私のように、いやな気持ちになった人が、神崎小にまだいると思いました。だから、「いじめのない神崎市」にしたいと考えました。

では、いじめをなくすには、どのようなことをしたらいいのでしょうか。私は、「いじめをなくそう」というポスターを書いたり、放送で、いじめのおそろしさを知らせたりしたらいいのではないかと思いました。神崎小みんながいじめはいけないことと思ってもらえるように、ポスターで伝えたいと思いました。

また、いじめをしている人は、いじめをされると、どんな気持ちになるのかが分かっていないと思います。だから、いじめのこわさやいじめをされると、どんな気持ちになるかをみんなに伝えるのも大事だと思います。軽はずみに言ってしまった言葉でも傷つきます。軽はずみで言った言葉がエスカレーターしていくといじめになっていくところが、おそろしいところだと思います。そのことで、学校に行けなくなってしまうたり、もしかしたら、命をなくしてしまったりする人もいるかもしれません。そのくらい、いじめは、人の心を真っ黒にします。いじめをされた人は、いじめを受けていることをだれにも相談できなくて悩むかもしれません。いじめは、絶対にいけないことだと思います。だから、いじめのおそろしさをみんなに伝えていきたいです。

いじめはしてはいけないと分かっているのに、いじめをするのはなぜでしょうか。一つは、相手の考え方を受け入れないからだと思います。ですが、考え方が違うからと言って、いじめをするのはおかしいと思います。考え方が違って、その意見をしっかりと聞き、自分と違うところも認めていく必要があると思います。もう一つは、相手に対してとった言動が相手はどう思っているか分からないからだと思います。そのためにも、いやだったことを正直に、「〇〇と言われたことは、いやだったな。」とその人の前で言って、伝えていくことが大事だと思います。

いじめがもしあったら、見ぬふりをするのではなく、先生やだれかに伝えることが大切だと思います。

私は、絶対にいじめをしないと思いました。そして、いじめは絶対にいけないことをみんなに伝えていきたいです。神崎市からいじめがなくなるように、私は、ぼかぼか言葉がいつぱいの神埼小にして、いじめをなくしていきたいです。

私の夢

西郷小学校 五年 中 尾 空 亜

「わあ、きれい。すごい、」

以前、私が初めて足の爪をジェルネイルできれいにしてもらった時、思わず出た言葉でした。あまりにもきれいだっただで、「私もこんなネイルができるようになりたい。」と強く思いました。それ以来、私は、ネイリストになることを目標にしています。

ネイリストになるには、特別な資格などはいりません。しかし、きれいに塗るための技術だけでなく、会話をする力やお客さんが安心してきてくれるような技術を学ぶことが大切だということを知りました。

私は、きれいに塗るための技術を高めるために、時々家で練習をしています。以前ジェルネイルをしてもらったすぐ後に、実際にやってみました。しかし、全然きれいにできませんでした。特に、グラデーションが難しく、きれいに仕上がりにませんでした。想像以上に難しく、ネイリストにはなれないかもと

思うほどでした。でも、やっぱり、私もあの時のネイリストさんのように、きれいなネイルがしたいという思いがこみあげてきて、何回も練習をしています。今の私の目標は、きれいな柄やかわいい柄に挑戦して、それを完璧にできるようになることです。友達や家族にしてあげたいと思ってがんばっています。練習したものを友達や家族に見せたら、「上手になったね。すごいね。」と言ってもらえて、とても嬉しかったです。練習をたくさんして、努力をすることは大切だと感じました。

二つめの会話をする力を高めるために、私は、日頃、自分から人に話しかけるようにしています。そのためにも、困ったり一人になっていたりする人がいないか周りをよく見るようにしています。そして、そんな人を見つけたらやさしく接しています。こうしたことはこれからも続けていきたいです。それが、周りの人を笑顔にすることにつながると思うし、ネイリストに必要なことだと思うからです。

三つ目のお客さんに安心してもらえるための技術を身につけるために、私は勉強することを続けていきます。私は、勉強はあまり好きではありません。勉強は、難しいからです。でも、どんなに難しくても、問題をもう一度読んだり、友達に聞いたりにしています。こうしてがんばることは、将来の夢につながると思っています。だから、今は学校での勉強や家での宿題を頑張つてやります。

ネイリストになる夢に向かって挑戦していますが、挑戦する中で、なおすべきところが二つ見つかりました。すぐにあきらめてしまう所とすぐに怒ってしまう所です。そこをなおさない

と、私が目指す完璧なネイリストにはなれないと思います。だから、学校でも勉強や委員会活動など、すぐにあきらめないようにしたり、怒らないようにしたりしてがんばっています。

小学一年生の時に、あのネイリストさんに出会えたことに感謝しています。私の他にもネイリストになりたい人はいると思います。その人たちに負けないように、しっかり練習をしたり勉強したりして、夢をあきらめずに頑張っています。私が夢を与えてもらったように、私も人に夢を与えられるネイリストになりたいです。

明るい学校生活を送るために

仁比山小学校 五年 手 島 秋 子

私は学校で、「言えばよかった。」と、後かいることがあります。ある時、「わあ、すごいね。」と、ほめたつもりだったのに、相手からはちがう意味でとらえられていて、がっかりさせてしまったことがあります。このことで友達とけんかをしたたり、仲が悪くなったりしました。私は、こういう後かいをしたくないと思っています。それで、これを言ったら相手はうれいだろうか、いやな気持ちにならないだろうかと考えてから言うように気をつけています。そして、自分が言われていやなことは言わないようにしています。

最近、たまに悪口を聞くことがあります。自分は言われて何

も思わなくても、相手はいやと感じるかもしれません。私も、前は悪口を言ってしまったたり、人をきずつけてしまったたりしていましたが、お母さんに、

「その子は悪口を言われたり、きずつけたりして、うれしいと思うの。」

と言われて、その子の悪いところなどを言っていた自分が、とてもはずかしく思えてきました。それから、人がいやがることはしてはいけな思っている、悪口を言わないように気を付けました。ですが、人がいやがることをいっさいしないということとは、なかなか難しいことでした。たまに、自分にはできないのかな、と思うこともありましたが、お母さんやお父さんに、できると言われて自信ができました。難しい時もあるけれど、できる時は心がけようと思うようになりました。

このように、ふだんから気をつけていたのですが、こんなことがありました。私は、休み時間は教室で折り紙をすることが多いのですが、仲良しの友達が休み時間に外で遊ぶことが増え、一人になつてしまうことが続きました。そこで、ちがう友達をさそつていっしょに遊んでみると、

「なんで私と遊ばないで他の子と遊ぶの。」

と言われました。私は、外遊びをしているからじゃましないで、おこうと思つて、ちがう友達と遊んでいたのですが、仲良しの友達は、もう、自分は友達ではないのではないかと、いやな気持ちになったそうです。そんなつもりではなかったのにと思つても、相手がいやな気持ちになつてしまったのであれば、ダメなことをしたのといっしょです。

その友達とは仲直りしましたが、人それぞれ受け取り方もちがうので、きちんと言葉で伝えないとごかいされてしまうことがあると感じました。人の気持ちを考えて、きちんと伝えることはとても大切なことですが、みんなが明るい学校生活を送るために、とても大切なことだと思います。これからも「自分が言われていやなことは言わない」「相手の気持ちを考えながら、きちんと言葉で伝える」ことを心がけていきたいと思ひます。

「二日の始まり」を大切に

仁比山小学校 五年 江越 莉史

「おはよう。」朝起きてあいさつする人が多いと思ひます。ほくが家族に「おはよう。」と言うと、必ず「おはよう。」と返してくれます。それがうれしくて、毎日朝起きると、つい「おはよう。」と言ってしまいます。毎日、あいさつはいいなあ、と思つてしまいます。だから、家族と朝あいさつをして登校すると、いつも気分がいいです。登校中、友達や地域の友達に「おはようございます。」と言うと「おはよう。」と笑顔で返してくれます。学校でも先生や友達にあいさつをすると、先生や友達もあいさつを返してくれます。あいさつをすると相手もうれしくて、あいさつを返してもらったら自分もうれしくなることに気がつきました。でも相手からあいさつをされると

もつとうれしいと感じました。ほくはうれしくて笑顔であいさつを返しています。たぶん相手もうれしかったと思ひます。

ほくがあいさつをするときに心がけていることが二つあります。一つは大きな声で元気よくあいさつすることです。二つ目は相手より先にあいさつをすることです。相手が遠いところにいるも見つけたら大きな声であいさつをしています。見守り隊の人が登校中、交差点に立ってくださっています。大きな声であいさつをしていると、見守り隊の人が褒めてくれます。あいさつをすると思ひます。見守り隊の人によつて、相手が笑顔になるとやがて自分も笑顔になります。それがあいさつのいいところだなと感じました。

二〇一九年五月二八日の朝に神奈川県で両手に刃物を持った男が、小学校のスクールバスを待つていた子供達を次々に襲う事件が起きました。18人がさされてケガを負い、うち小学6年の女子児童と保護者の男性が命を落としました。校長先生の話によると、亡くなった6年生は毎朝学校の前で「おはよう。」と笑顔であいさつを返す児童だったそうです。こんなにあいさつをしている人が亡くなるなんて、とても悲しい事件です。そこで、あいさつと犯罪は関係があるのか疑問に思つて調べてみると、あいさつには防犯効果があることが分かりました。不審者はあいさつをされたり、声をかけられたりすると犯行をあきらめることが多いそうです。ですので、あいさつをたくさんすることで犯罪の少ない日本になつてほしいです。

神奈川県であった事件をきっかけにほくは、みんなが笑顔で元気なあいさつができると思ひました。いつ死ぬか分から

ないので今生きていることを当たり前とは思わずに生きていきたいと思えます。

これからも「一日の始まり」である「おはよう」を毎日欠かさず家族に伝えていきたいです。そして友達や地域の人、先生に笑顔で元気なあいさつを続けていきたいです。

私の将来の夢

千代田中学校 一年 西村 優羽

私は小さい頃から体が弱く、病院に通うことが多い子どもでした。小児科、耳鼻科、整形外科など、色々な病院に通いました。「なんでずっと薬を飲まないといけないんだろう。」「なんでずっと薬を飲まないといけないんだろう。」「なんでずっと薬を飲まないといけないんだろう。」「なんでずっと薬を飲まないといけないんだろう。」「なんでずっと薬を飲まないといけないんだろう。」「なんでずっと薬を飲まないといけないんだろう。」

いつも行く病院の薬局で、その日はいつもいるおじさんの薬剤師の方が不在でした。代わりに、若い女性の薬剤師の方が対応してくれました。その時の私はまだ幼く、いつも薬の説明は聞かずに、本を読んだり、おもちゃで遊んだりして、母が薬をもらってくるのを待っていました。しかし、その女性の薬剤師の方は、遊んでいる私のところまで来ると、目線を合わせて、私の分かる言葉で話しかけてくれたのです。「このお姉ちゃん、やさしくて好き。」と思ったのを、今でも覚えています。

この出来事をきっかけに、その女性の薬剤師さんに会うのを楽しみにして薬局に通うようになりました。そして、その薬剤師さんを観察していると、ときばきと薬を準備し、丁寧に説明されています。私は、だんだん薬剤師の仕事に興味をもつようになりました。

そう思い始めたころ、ちょうど薬剤師が主人公のドラマがテレビで始まりました。薬剤師に興味があった私は、毎回欠かさずに見るようになりました。患者さんたちから、医師のように頼られず、看護師のように親しまれなくても、縁の下のように持ちとして、日々頑張っています。私は、そんな薬剤師の姿を見て、医療従事者の方たちがどんな思いで仕事をされているのかを感じることができました。そして、医療従事者の一員として、尊い命を守るために働く薬剤師の仕事は、とても素晴らしい仕事だと思いました。薬を患者さんに届けるという面でも患者さんに役立ち、あの女性の薬剤師さんのように、患者さんとコミュニケーションをとることで、患者さんの不安や悩みに寄り添い、心のケアにも役立つ。そんな、かっこいい薬剤師になりたいと、強く思いました。

その夢を叶えるために、私は主に二つのことをがんばろうと思います。

一つ目が、勉強です。薬剤師になるためには、まず大学の薬学部か、薬科大学に入学しなければなりません。そして、六年間の薬剤師養成課程を修了し、国家試験に合格して、薬剤師免許を取得しなければなりません。患者さんの病状が少しでも改善するように、病状や、他にのんでいる薬はないか、アレ

ギーがないかなどを確認し、一人一人の患者さんに適した薬を出すことができなければ、患者さんの病状どころか、命をも脅かすこととなります。薬剤師の仕事は、人の命に関わる責任の重い仕事です。この仕事ができるようになるには、しっかりと勉強しておくことが大切だと考えます。私は、勉強はあまり好きではないので、途中で眠くなったり、先生の話聞いていなかったりする 때가たまにあります。しかし、自分の夢に近づくため、こんなふうじゃいけないと、やる気スイッチを入れ直しています。メモをたくさん取ったり、家庭学習の時間を工夫したりして、勉強を続けることが苦にならないようにがんばります。

二つ目は、日頃の生活の中で身に付けることです。薬剤師は、患者さんとのコミュニケーションが大切です。小さい子どもからお年寄りまで、元気がない人や、痛みで苦しんでいる人など、お話をしなければならぬ相手は、のんきに楽しく話ができる方ばかりではありません。そのときの患者さんの状況に合わせて対応が必要で、患者さんの気持ちに寄り添った表情や声かけをしなければいけないと思います。とても難しいことですが、相手の状況に気づいて、気を遣えるような行動をとれるようになりたいです。あのお姉ちゃんのような薬剤師になるために、私は、生活の中で次のことを身に付けたいです。やるべきことは確実にやること、人として守るべきことを守ること、周りの状況をよく見て行動すること、いつでも誰に見られても恥ずかしくない生活をする事、他にもたくさんあると思います。自分の夢を実現するために、がんばりたいと思います。

病院や薬局にずっと通っていて、「なんでだろう。」「いやだな。」と思っていた、暗い気持ちを、あの女性の薬剤師の方が変えてくれました。小さいときに抱いた、「薬剤師のお姉ちゃん、好き。」と思っていた気持ちは、今では「あんな薬剤師になりたい。」という気持ちに変わりました。

私の将来の夢である、薬剤師になるためには、まだまだ勉強や、身に付けるべきことがたくさんありますが、この夢を必ず叶えられるようにがんばります。

「公平」な教育

千代田中学校 一年 佐野明花

あなたの個性は何ですか。それを聞いて、すぐに答えられる人はほとんどいないと思います。私の個性は、自分の「考え」をもてることです。人に自分の意見を言う時、感心されることが多いです。もちろん、あまり納得してもらえないこともあります。私には、この個性を伸ばしていきたいです。しかし、私の周りには、自分の個性を見つけていない人がたくさんいると思います。一人一人個性をもっているのに、見つけられていません。また、たくさん個性をもっているのに、一つほどしか輝いていない人もいます。私は、個性を何かが奪ってしまっているのではないかと考えました。

そこで私は、日本の教育について注目してみました。あるク

ラスメイトが「授業が簡単すぎてつまらない」と言っているのを耳にしました。でも、同じ授業で私の友達は「難しい」と言っていました。学力の差があるのは明らかなのに、同じ年齢なだけで、同じスピードで同じ授業を受けるのはおかしいと思いました。

日本では、皆「平等」に教育を受けています。「平等」な教育とは、力の差があっても、みんなに同じ教育をする、という意味です。つまり、もともとあるものに、皆同じ量だけ与えるという意味です。だから、個性的な人が目立つ社会が生まれているのです。それに対して私は、「公平」の方がいいと考えます。「公平」とは、もともとあるものに応じて、皆がある程度のレベルに達する教育です。もともと差があるのは仕方がないですが、それぞれの個性が生まれると思うし、実際にスポーツでは、「平等」な勝負ではなく個性を生かした、「公平」な勝負が行われています。

私が強く伝えたいのは、皆同じ勉強をしなくてもいいんじゃないか、一人一人違う勉強をしてもいいんじゃないか、ということなんです。ここでいう違うとは、二つの意味があります。

一つ目は、同じスピードで勉強を進めなくてもいいということです。一人一人違うスピードで勉強することは、難しいかもしれませんが、レベルに分けて勉強するのは比較的容易だと思えます。皆との交流は、給食の時間や道徳、学活の時間にすればいいと思います。また、先生が生徒のレベルに合わせてやすいし、先生が足りないとき、生徒が教えてあげることできます。

二つ目は、同じ勉強をしなくてもいいということです。中学

一年生はまだ自分が何に興味をもっているのか分からない状態の人が大半です。だから、色々な職業や学問を専門にしている人と触れ合う機会を作れたらいいと思います。実際に会うのは難しいですが、インターネットを使って、いくつかの選択肢の中から選んで調べたり、見たりするのは、たくさんものに簡単に触れられる手段の一つだと思います。このように、皆が違う教育を受けることで、それぞれが違う人に育っていくと思います。

私には、夢が二つあります。一つ目は、皆が自分の好きな勉強ができる環境をつくることです。早い頃から夢を見つけ、楽しく勉強できたらいいと思います。

二つ目は、いつでも誰でも勉強できるスペースをつくることです。例えば、私たちはいつも教室で勉強していますが、より静かな廊下で勉強したいという人もいるかもしれません。そのように、いつでもどこでも勉強できるようなスペースは必要です。そうすれば、前例のような場合、休み時間も廊下で勉強している人のために、静かに落ち着いて過ごす空間ができると思えます。そのために、今私ができることは、外国の教育法を学んだり、学校の仕組みや友達のことをたくさん知ったりして、問題点や解決法を見つけることです。

「平等」ではなく、「公平」な教育を。私は誰もが「楽しい」と言って笑顔になれる勉強ができる環境を実現するために頑張ります。

言葉の重さ

千代田中学校 二年 中野 沙彩

みなさんは、軽い気持ちで人に「バカ」や「死ね」などの暴言を吐いたことがありますか。私は、あります。

小学校低学年の頃、私はよく友達に暴言を吐いていました。友達と遊んでいても、ちよつと気に入らないことがあると、その友達に「クソ」や「死ね」などの言葉を平気で言っていました。しかし、小学校高学年の時、私が繰り返し使ってきたその言葉が、とうとう自分に向けられるという事がありました。switchというゲーム機を使い、友達と協力して一つ一つの場面をクリアしていくというゲームをしていた時でした。私は、操作がたくさんあるswitchが苦手だったため、なかなか上手に操作できず、何度もゲームオーバーをしていました。それでも、友達から教えてもらい、助けてもらいながら進め、あと少しでクリアという時、またしてもゲームオーバーに。その時、友達から言われた言葉が「はあ。役立たず。」でした。その言葉は、私の心に深く刺さりました。友達は、軽い気持ちで言ったのかもしれませんが。しかし、ゲームをクリアできないことに罪悪感を感じていた私には、あまりにも重く冷たい言葉でした。友達の放った一言は、私の気持ちを傷つけただけではなく、私の自己肯定感を下げ、友達への信頼を奪ってしまいました。

私たちは、毎日、言葉を使って生活しています。まるで呼吸

するように。自分の周りにある空気の状態を意識しないように、私たちは言葉を使うことに慣れすぎて、その重さや存在を軽く見ているのではないのでしょうか。しかし、言葉には大きな力が宿っており、人の思いや行動、人生に大きな影響を与えることがあるのです。私は自分の経験を通して、それを実感しました。言葉は、その使い方によって、相手に良い影響も悪い影響も与えられるのだと。あの時、「どんまい」「大丈夫」「気にしないで」と言われていたら、私の今は違っていたのかもしれない。しかし、あの経験をしたことで、私は言葉の重さを見直すことができました。言葉の選択を丁寧に行えば、優しい言い方に変えれば、相手の心を温かくし、その場の雰囲気や和らげ、人間関係をよりよい方向にもっていくことができるのだと思います。

もう一つ、自分の経験から学んだことがあります。それは、言葉は相手に対して発するものだけど、それは自分にも周りの人にも響いているということです。だから、私は友達への暴言をやめ、優しい言葉や励ます言葉を使って接することを心がけました。すると、私自身の心が前と違って落ち着き、自分の言動に余裕がもてるようになりました。言葉は、人とコミュニケーションをとるために必要な道具の一つです。だからこそ、相手に発した言葉はいつか自分に返ってきます。その言葉がよい言葉であれば嬉しい言葉で。悪い言葉であれば、冷たい言葉で。

最近、社会的に誹謗中傷やいじめが絶えません。みんなが言葉の力の大きさ知り、自分や周りの人に対する影響力の大き

さを理解することで、これらの問題もなくなっていくのではないのでしょうか。身近なものだからこそ、大切に丁寧に使っていきたいと思います。

人との関わり

千代田中学校 二年 今 泉 陽 菜

「人間関係だつて自分を成長させるチャンスだととらえる事も出来ます。」この言葉と出会ったのは、とある小説の中でした。その時、周囲の人との関係にとっても悩んでいた私は、この言葉に勇気もらいました。

私は、どちらかというと、人と関わるのが苦手です。自分から人に話しかけることが得意ではないからです。もちろん、たわいもないことを話し笑い合う友達も、悩んでいることや辛いことを打ち明ける友達もいます。しかし、時々考えます。「人との関わりは、私にとって大切なことなのだろうか」と。

この疑問を抱くようになったのは、部活動でのある経験がきっかけでした。私は部長を務めています。練習のスケジュールをめぐって意見が食い違ったとき、私の意見が部長だからということで採用されたことがあります。しかし、その意見に納得していない部員は、グループとなって何かコソコソと話し、その後の練習にも影響を与えました。もともと仲がよい部活だったので、私の発言によってこういう状態になったの

ではと自信を無くし、ひどく傷ついてしまいました。この時から、私は誰に対しても、自分の本心を隠して話すようになりました。そうすると、自分が傷つかないからです。「これでいい」。しばらくは、そう思っていました。しかし、そんな私の気持ちとは反対に、友達は今までと変わらず、私としつかり向き合い接してきます。その時、私は自分のこの態度や考えこそが、すべてを裏切る行動だったことに気づきました。私は、人との関わりではなく、自分との関わりを絶とうとしていたのです。

私の周りには、絶対に絶つてはいけない大切な関わりがたくさんあります。まずは、家族です。家族の存在が、私に安らぎと勇気を与えてくれます。私が今、幸せに生活できているのは、家族が支えてくれているからです。そして、次に友達。友達、私の学校生活を豊かなものにしてくれます。楽しい、と思える時間を共に過ごす、大切な存在です。しかし、私の周りには、関わりは、これだけではありません。「地域の方との関わり」もあります。私が、この千代田で快適に安全に過ごせているのは、「おはよう」「いってらっしゃい」と、いつも見守ってくれる地域の目があるからです。そして、範囲をさらに広げると「世界の人々との関わり」もあります。インターネットを通して、私達は世界の人とつながり、様々な情報を共有しています。目には見えにくいものですが、これも私と密接に関わっているものの一つです。

これらの関わりは、どれも大切で、絶ってしまったら生きていけないものばかりです。しかし、その中心には、必ず自分が

います。だからこそ、自分が自分の心を見つめ、嘘をつかず正直に向き合っていないといけません。人との関わりは、自分との関わりでもあることを、私は経験から知ることができました。

私は、人との関わりは、手と手をつなぐようなものだなと思います。強くつないであげることもできれば、簡単に手を離して傷つけてしまうこともあります。私は、傷つくの恐れて、人との関わりを避けてきましたが、これも私を成長させるチャンスです。強く強く手をつなぎ、そして、つなぐ手をもっと多く広くしていきたいです。

さりげない気遣い

千代田中学校 二年 船津 心美

貸した教科書に「ありがとう」の付箋が貼ってあったり、けがをした時にさつと絆創膏をくれたり、私はいつも周囲のさりげない気遣いに支えられています。でも、このことに気づくようになったのは、小学校の頃、友達と勉強することの意味について考えたことがきっかけでした。

「歴史って、勉強する意味あるのかな。今の私達には関係なくない。理科の昆虫の勉強だって、虫のことを勉強して将来役に立つのかな」。ふと、今なぜ私達が勉強しなければならぬのか。その意味について話したことがありました。「義務教育

だから、しょうがない」。その時は、その位にしか思っていないでした。しかし、それからしばらくして、小学二年生の子と下校している時、「どうして勉強しなくちゃだめなの」と同じ質問をされてしまいました。まだ小学二年生の子を相手に、上手に教えてあげられませんでした。簡単に教えてあげなくてはと思うと同時に、私にもその答えがよく分からなかったからだと思います。その時から3年しか変わりませんが、今の私なら「歴史を勉強するのは、過去にあった間違いや考えを繰り返さないため。昆虫について勉強するのは、これからも昆虫と共生していくため。」と教えます。これが正解なのかは分かりません。しかし、今、私がしている全ての事には意味があり、無駄なことは一つもないと感じています。

こう感じる事ができるようになったのは、私の喜怒哀楽の感情や、行動を決めたり判断したりすることに、意識を向けるようになったからです。「お先にどうぞ」「ついでにしようか」。これまで、気にも留めなかった言葉ですが、今は、相手からのさりげない気遣いを、言葉から感じる事ができます。言葉だけではありません。プリントを回すとき、後ろの人を確認して渡してあげたり、落ちていたゴミを拾ったり、黒板を毎時間きれいに消したり。何気ない日常の中に、少しだけどさりげない気遣いをしている人がいます。これらの気遣いに気づくことができるかどうかは、人の言葉や行動の意味を、意識するかしないかだと思います。なぜなら、自分の感情や行動は意識できますが、相手の感情や行動は読み取りにくく、気づきにくいからです。

だからこそ、私は、多くの人がしているさりげない気遣いに目を向け、見ようと努力しています。もちろん、さりげない気遣いは見ようとして見られるものではありません。相手の気持ちを想像し、感謝の気持ちを忘れないことが大切だと感じます。簡単にできることではありませんが、だからこそ、私は読み取れた時、見えた時の喜びがあるのだと思います。

そして、このような日々の気遣いが、平和な社会の第一歩だと思います。平和を築いていくのは、国家ではなく、私たち一人一人の日常です。互いに気遣うことで、小さな優しさが広がり大きな優しさとなるのです。私たちの生活の中に、無駄なこととは一つもありません。全てに意味がある大切なことばかりです。小さな気遣いを見落とさない目を、心を、これからも大切にしていきたいと思えます。

おいしい食べ物を食べるために

脊振中学校 一年 山下 悠 楽

私は、毎日おいしいごはんを食べています。給食や母のごはんはとてもおいしいです。ごはんを食べるときにいつも、ここにくるまでにどのような人が関わってきたのだろうと考えます。テレビでもよく食べ物のニュースを見ます。私は先日、次のようなニュースを見ました。

それは、食べ物が自分のもとに届くまでにたくさんの方が関

わっているというものです。食べ物は、生産者から農協などの出荷団体、卸売り市場にいき、そして、スーパーやレストランなどにいき私たちのもとに届きます。私はこのニュースを見て、こんなにたくさんの方が関わっているのだと驚きました。何気なく食べているごはんですが、いろいろな人が苦労して私たちのもとに届いているのだと改めて感じました。また、給食では調理員さんたちも苦労して作ってくださっています。だから、これからはもっと感謝しながら食べようと思いた。

食べ物のニュースでも、悲しいものがあります。それは、鳥インフルエンザです。鳥インフルエンザとは、「トリに対して感染性を示すA型インフルエンザウイルスのヒトへの感染症」だそうです。鳥インフルエンザにかかった鳥は、他の鳥にうつさないよう殺処分されます。しかも、感染した鳥だけでなく、発生した農場の鳥はみんな殺処分しなければいけない決まりです。悲しいですが、他の鳥がウイルスに感染することを防ぐためには仕方がないことだと思います。この鳥インフルエンザが流行したため、以前より卵の値段が高くなっています。私はこのニュースを見たとき心配になりました。このままいくと食べられなくなるものがあるかもしれないからです。

食品の値上げは卵に限ったことではありません。野菜や肉なども最近値上げがされています。理由は主に二つあります。一つ目は、鳥インフルエンザのような感染症です。動物が病気になるり処分されることで数が少なくなり、価値が上がって値上げされています。動物たちの病気といっていますが、人間がうつ

している可能性があります。あるニュースで、人間が捨てたゴミを食べて病気になるっている動物がいるといっていました。ゴミをポイ捨てしている人を見かけることもあるので、人間の意識を変えないといけないと思います。私はできるだけだけゴミを拾っていききたいです。

二つ目は、気候の変動です。排気ガスなどが原因で地球温暖化が進み、雨が激しく降ったり、気温が高くなったりと異常気象が続いています。異常気象が続くと作物が思うように育たなくなります。これを防ぐために、排気ガスを減らしていくことが大切です。現在、減らすために様々なものが開発されています。例えば、電気自動車です。電気自動車は、電気で走るため排気ガスが出ません。しかしまだ、電気自動車に乗っている人は少ないと感じます。もっと普及していくような取り組みが必要だと思います。では、中学生の私にもできることはないかと考えました。それは、エアコンの温度を下げる工夫をするということです。室内でも少し厚着をしたり、ひざかけなどを使用したりするなど工夫できることがあると思います。

このように、誰にでもできる身近なことを意識することで、食品の値上げも防げると考えます。ほかにも、食に関する問題はたくさんあります。私たち一人一人ができることは、さいいなことかもしれません。しかし、これからおいしい食べ物を食べられるように、いろいろな工夫をしながら、自分たちで今できることをしていきたいです。

いじめをなくすためにできること

神崎中学校 一年 檜 枝 結 菜

みなさんはいじめについてどう思い、考えていますか。いじめとは、いじめられた人が攻撃を物理的や、心理的に受けたことによつて、メンタル的な苦しみを感じているものです。いじめと聞いてもなかなかしっくりこない人がいるのかもしれないが、無視・仲間外れ、暴力をふるわれる、物を隠されるなどさまざまあります。これを見れば、身近でもこんなことがあるなど多くの人が考えるでしょう。

私も小学生の頃、学校で六・七人から無視や仲間はずれ、悪口を言われたりしました。ですが、なぜいじめられたのかいまだに分かりません。その人たちとは仲良くやってきましたつもりだったのに、なにか悪い事したのかなとずっと考えていました。自分の席に聞こえてきた楽しそうに遊び笑っている声を聞いてとても、とても辛かったのを覚えています。

私がテレビを見ているとこんなニュースがあっていました。それはある部活で「制汗スプレー」のガスに火を付け、体に近づけられるいじめを受けた。」というものでした。それをした本人はからかい程度でそのようなことをしたのかもしれないと思いましたが、それでもいじめを受けた本人や周りの人からはいじめと受けとめられています。火を付け、体に近づけるといいう行為はとても危険で怖いです。なぜそんなことをしたのか、そんなことをする必要があったのでしょうか。「そもそも理由が

あつても嫌がることをしてはいけない。」こんなこと幼稚園生や小学生でも理解できます。それをもっと大きい人がしているのです。情けなくないのかと思います。こんなことは日本だけでなく、もっと広大な外国でも起きています。いじめがない所なんて存在しないのではないのかなと思います。

けれどもいじめをなくすためにできることは数多くあります。

いじめをなくすためにスウェーデンのいじめ撲滅を掲げるNGO「Friends」の活動を紹介します。まず一つ目は心配をしてあげてください。一緒にお昼ご飯を食べ、休み時間何して遊ぶか聞いてみてください。ほんの些細なことが大きな意味を持ち、人は嬉しくなるのです。二つ目、いい空気づくりをしよう。いじめが起きないために必要なのはグループでいるときの空気です。悪口、いじりがある雰囲気は良くないグループだったら人に相談をして楽しいグループにしましょう。三つ目はダメと言うです。誰かがいじめをしていたら「それはいけないよ。」と言うことでいじめに加わっていないと見せつけることができます。大人に相談をし、救ってあげるといいと思います。それはチクリなわけではありません。正しい行動をしているだけです。以上この三つを紹介しました。これを活用して、いじめがなくなるといいなと思います。

いじめのない社会にするために私が考えたのは友達といるときも、いつも相手の気持ちを考えているよう努力し、私が困っている誰かを支えていけたらなと思っています。みなさんもこの主張文を通していじめのない社会を目指していきましょう。ほんの少しの勇気を出すことで救われ、いじめはなくなりま

す。助けようと思うことだけでとても素晴らしいことです。だからその勇気を忘れず、自分から逃げないで、自分に負けないでください。みんなの笑顔あふれる世界を夢みてがんばってくださいましよう。

いじめの恐ろしさ

神崎中学校 一年 早田 ゆい

皆さんは、いじめについてどう考えますか。私は、いじめは絶対にいけないことだと思っています。

私がいじめをテーマとして選んだのは、色々なテーマの中でも一番このことを伝えたいと思ったからです。

いじめはどうして起きてしまうのか、いじめはどんなものなのかを、皆さんに考えてほしいです。

まず、どうしていじめが起きてしまうのかを考えました。私は、人は相手の得意ではないところに注目しがちな生き物だと思っています。

相手の弱いところを見て面白がって笑う、そういうものがいじめだと思っています。「人は自分より下の人の上に立ちたがる。」この言葉を聞いたとき、本当にそうだなと思いました。

なぜ人は人の上に立ちたがるのか、私には分かりません。同じ地球で生まれ、親は違うけれど、楽しく元気に生きてきたことは同じだと思っています。でも、なぜいじめが起きてしまうのか、

私は本当に悲しいです。

次に、いじめはどんなものなのかを考えました。私は、いじめは言われた人の人生を壊し、もしくは命までも簡単に奪ってしまうものだと思います。

皆さんはいじめがどんなに辛いことか、考えたことがありますか。いじめは、言われた方も言った方も、一生心に残ります。一度してしまったことは簡単にはもどりません。一度言った言葉や、してしまった行動はもうもどりません。もし、あなたの言った言葉やしてしまった行動で誰かが命を落としてしまったら、あなたはどうかすればいいのか考えたことはありませんか。私はこのようなことを常にかんがえながら、皆さんに日々を送ってほしいなと思いました。私は、いじめが起きない平和な地球になってほしいと思っています。だから、あなたの言うてしまった言葉や、してしまった行動で誰かを傷つけてほしくありません。だから、自分の行動には気を付けて生活してほしいなと思います。

皆さんは、もしいじめの現場を見てしまったらどう考えますか。例えば、なんでこんなことするんだろうとか、助きたいけど怖いなといったことを考えると、思います。しかし、私は、怖いかもしいれないけど、その子を助けてあげてほしいと思います。一人が怖いなら、友達を連れて二人で、二人でも怖いなら三人で、何人集まってもいいので、助けてあげてほしいなと思います。

私は、いじめが原因で亡くなってしまふ人が一人でも減ることを願っています。皆さんは加害者に絶対にならないでください

い。いじめは、やった方もやられた方も人生が変わってしまいます。私は、皆さんに楽しい人生を歩んでほしいと思っています。

私はこの社会がいじめのない平和で人権ある社会になってほしいし、生きていきたいなと考えています。なぜなら、いじめがなくなったら、今よりももっともっと良い楽しい人生をみんなが歩めると思うからです。その社会を作っていくためには、皆さんの協力が必要だと思います。私は皆さんと協力して、いじめのない楽しい社会を作っていきたいです。

「いじめ」って？

神崎中学校 一年 増田 凜

「いじめ」とは、なんだと思うか。「いじめ」とは、一般では一人、または複数人が、一人に嫌だと思ふことをすることだ。だが、それはあくまでも、世の中の意見というだけで、個人の意見ではないのだ。私も、世の中の意見に少し疑問があり、考えてみようと思ったのだ。

よく、授業の中で、「いじめ」について考える学習がある。私も小学六年生のときに学習をした。いじりからいじめへエスカレートをしていく、というテーマで授業をうけた。実際にあったそのいじめの内容は、想像以上にすごいものだった。そして、「いじめ」をなくすために、クラス皆で、考えたのだ。

そこで出た意見は、すごく良かったのだ。「友達を大切にす
る」「相手が嫌と思うことはしない」など、私は、皆、「いじ
め」についてよく考えているんだなと思った。

だが、それは違った。陰口を言っていたり、いじったり。私
は、気づいたのだ。あの授業の中での意見は、全部きれいごと
を言っているだけだったのだ。本人達が思っている意見
ではない。まるで自分達の仕事のように、感情もない人がいる
のだ。だから「いじめ」は、減っていかないのだ。「いじめ」
の授業をうけても、何も思っていないからだ。

「いじめ」は、当然のように起きています。まるで、自然災害
のように。最初は、澄んでいた景色も、一瞬で壊れていく。悔
しさと、悲しさでいっぱいなのだ。復興をしてくれる人々もい
ない、そして景色は、死んでいくのだ。

そして、私の身近な人にも「いじめ」があったのだ。ある
日、私が友達と話していると、友達が言ってきた。「私、前い
じめられてたんだよ」と。その子は、軽く、当然のように言っ
てきた。私は、とても驚いた。それほど身近にも「いじめ」と
いうものがあるのだと感じた。でもその話を聞いて私は、なん
て返せばいいか分からなかった。それと同時に、私は、「いじ
め」の話ってそんな軽く当然のように話していいものなのだろ
うかと思った。本人は、すごく傷ついて、心に閉ざしていたも
のなのに。私は、不思議な気持ちになった。

皆は、身近な人がいじめられていたことがあっただろうか。
人によって状況は違うと思う。どうすればいいか相談された
り、前あったことを話されたり、それぞれ状況は違うが聞いて

いる側は、なんて返せばいいか分からないと思う。だが、私
は、聞くだけで良いと思う。ひたすら、相手の話が終わるま
で。正直いじめられている気持ちは、想像できないし、自分が
アドバイスをして、その選択が、間違っていたら、どうするこ
ともできないのだ。だから、私は、話を聞き、一緒に考えるこ
とだけで良いと思った。

いじめとは、いじめられた人にしか分からない、言葉で表せ
ない意味なのだ。だから、軽々と語っては、ダメなのだ。「い
じめ」というものを、経験したことない人たちが、勝手に、偏
見をもち、解釈しているだけなのだ。「いじめ」をうけた人
は、かわいそう、トラウマになっている：などと勝手な印象を
つけて立場上弱者になっているのだ。それはちがうと思った。
「いじめ」をうけた人でも強い心をもって皆と同じように暮ら
している。いじめをなくすことはできないと思う。でも、とな
りにいて、話を聞いて、うなずくことはできると思う。一人で
は「いじめ」をなくすことはできないが、二人になると、自然
といじめは、なくなっていく。

私の夢と動物たちの社会問題

神埼中学校 一年 野 中 碧 真

あなたに夢はありますか。私の夢は獣医師になることです。
私になろうと思ったきっかけはいくつかあります。一つ目は、

私が動物が好きだからです。だから、よくテレビで動物の番組を見ます。動物の番組を見てみると、ケガをした動物を見ることもよくあります。

こうしたケガをした動物を一匹でも多く助けてあげたいと考え、獣医師になりたいと思いました。二つ目に、私は動物の中でも特に、犬が好きです。だから今犬を飼っています。

私は、犬についてさらに知りたいと考え、獣医師になりたいと思いました。そこで犬が関わる社会問題について、ネットで調べてみました。すると、犬猫の殺処分問題や多頭飼育崩壊、ペットロス問題などがあることを知りました。犬だけでなく、動物という広い視点から見ても、また様々な問題があることを知ることができました。このような、社会的問題が多くある状況で、本当に動物たちにとって生きやすい社会になっているのでしょうか。

犬から動物へと視野を広げてみると、動物の虐待や遺棄、悪質な業者による販売、動物愛護団体の不適切な飼養、鳴き声や悪臭などの迷惑問題、動物による傷害事件などの社会問題があることを知りました。私はこのような社会問題の中から、さらにいくつか調べることにしました。

一つ目に調べた社会問題は、犬猫の殺処分問題についてです。調べてみると、現在、日本において自治体による犬猫の殺処分頭数は、毎年減少の傾向にあるようです。それでも、令和三年度では、犬猫合計で144587頭にまでのぼっているようです。また、その犬猫の多くは、自治体に引き取られるまでは、飼い主がいた犬や猫たちだったそうです。

二つ目に調べた社会問題は、動物の虐待や遺棄についてです。動物の虐待については、2000年に施行されている、動物愛護管理法によって、動物を虐待から保護しているようです。動物愛護管理法は、虐待せず、適正な飼養や管理を行うことを定めた法律です。しかし、動物愛護管理法が施行された四年後の、2004年の調査では、犬猫の引き取り数は、418413匹にものぼっていたそうです。そのうちの394799匹が殺処分されています。これは、全国の合計数で、それだけの犬猫が保護されています。また、飼い主から引き取りを依頼されても、保健所や動物愛護センターでは保護しきれなかったという事例もあつたそうです。そして、野生化すると、近隣住民にも多大な迷惑をかけることになります。また、その地域に生息していない外来種の場合、農業被害や生態系の破壊などの問題にもつながります。このような動物の殺処分や虐待、遺棄は深刻な問題だと考えられます。

このように、犬猫の殺処分問題で、殺処分頭数が、2012年に動物愛護法の改正が行われたことにより、減少している点や、虐待から動物たちを保護することが規制内容に含まれている法律ができた点などから、少しずつ人間にとっても、他の動物にとっても生きやすい社会になっていると考えました。これから、将来の夢である獣医師になる上で、動物たちの現状の社会問題を知ることができました。今ある問題を、これから解決していけるように考えたり、今飼っている犬をしっかりと大切な命であると受け止めて、これからも大事にしていきたいです。

宗教の在り方

神崎中学校 二年 古川 千 歳

私は本を読むことが好きで、最近では海外の有名な昔の作品や詩集を多く読んでいたのだが、そこで時折、「神」や「宗教」という単語を目にする。宗教の中では仏教が一番身近であり、イメージしやすいのだが、世界には他にもたくさん宗教があり、様々な国や地域が宗教により発達してきたようだ。

現在の日本では、憲法で信教の自由を保障しており、宗教団体や信者、信徒が多くいる。私の祖父母も仏教の宗派である浄土真宗を信仰しており、よくお寺に行っている。私も祖父母の教えのもと、正月やお盆などの大きな行事のときにお寺に参拝に行ったり、念仏奉仕団として京都のお寺に奉仕をしに行ったりしている。祖父母は、仏の教えに感銘を受け、支えられていたことから信仰し始めたらしいのだが、宗教を信仰する理由やきっかけは人によって様々であると考えられる。心の支えとして信仰する人、今の科学ではわからない死後や未来を神に導いてもらって安心感を得ようとする人もいると思う。人々は、よりよい生活や人生を送るため、「幸せ」になるために信仰をしており、だからこそ宗教はこんなにも古くから伝えられているのだと考える。しかし、現在、「幸せ」を求める宗教に関する問題も少なくない。

まず宗教問題として一番に頭に浮かぶのが、昨年起こった安倍元首相の銃撃事件で明るみになった旧統一教会のことであ

る。法外な献金などの多くの問題が発覚し、ニュースやネットでも多く取りあげられた。その中でも私は、強制的な信仰により人権や時間が奪われることになった宗教二世の方々の苦痛をもっと多くの人に知ってもらいたい。宗教二世の中には身体的暴力を受けてきた方が多く存在する。そもそも宗教儀式への強制参加は禁止されており、宗教暴力として扱われている。子ども頃受けた宗教暴力で苦しんでいる方は多くいる。もしかしたら、今実際に宗教暴力を受けている子どももいるかもしれない。宗教暴力で苦しむ人を減らすために、まずはその苦痛を知り、助けを求めやすい国や世界をつくるのが大切だと思う。

次に、宗教紛争が問題としてあげられる。宗教紛争は、互いの宗教の価値観や考えの違いや宗教差別などから衝突が起これり、他にも政治や土地のことなど、様々な理由で発生してしまう。現在でも紛争が起こっている国は少なくなく、私たちが知らないだけで多くの犠牲者が出てしまっている。紛争などの対立は互いの価値観を認め合えるようになれば起これないのではないだろうか。自分の考えを貫くことも大切ではあるが、誰の考えも間違いではないことを理解し、他人の言葉に耳を傾けることが平和への一歩であると考えられる。

私は、宗教は自分の幸せだけでなく、周りの人や世界が幸せになるために存在するのだと思う。弱者をいたぶったり、互いに傷つけ合うために教えを説かれたのではない。自分と他人の信仰の違いに違和感を抱いたり、魅力的な教えにのめりこみそうになったりするだろうが、一度、自分のことだけでなく、周りや社会、世界を見渡すことが大切だと思う。

自分と宗教と周りの人たちと、適切な距離や関係で接することができれば、よりよい生活や人生、世界につながるのだ。誰もが幸せになるように、すべての人が一度、宗教の在り方について考えてくれることを願っている。

国境を越えて

神崎中学校 二年 長尾 結花

みなさんは外国の方と関わったことはありませんか。私は夏休みに北山少年自然の家での一泊二日の韓国との交流会に行きました。私は外国の方と交流するのは初めてで、英語が苦手なのでとても緊張していました。ですが、韓国の方々はみんなフレンドリーで、気軽に名前を呼んでくれて優しくかったです。この交流会を通して私が思ったことを三つ紹介します。

一つめは、日本と韓国では英語力の差が大きいということです。なぜそう感じたかという、韓国の方が人と関わることに慣れていて積極的に英語で話されていたからです。チームでインタビューをするという活動では、日本人は自分から話せず、みんな立ちすくんでいるだけでした。韓国の方は自分から話しく行く人がほとんどで、英語で伝わらないところはジェスチャーを使いながら頑張って伝えようという姿勢でした。話さないことには思いは伝わりません。外国の方ならなおさらです。積極性と伝えることの大切さを学びました。

二つめは、食を通して仲が深まったことです。日本と韓国は食文化が似ていると思っていました。箸を使うところは同じでしたが、違うところが多かったです。「いただきます」「ごちそうさま」のあいさつや手を合わせるという文化、普段食べている食材などこんなにも違うのかと驚きました。韓国の方に食事のあいさつを聞かれたので「いただきます」を教えました。同じ言語で話しながら食べることで仲が深まりました。世界中に様々な食文化や言語があつて、どれも全く違うからこそ興味がわき、行ってみたいと思う、これが国際交流の素敵なのかなのだと実感しました。

三つめは、自分の英語力が上がったところです。交流会には、ブラジルやオーストラリアなど八か国から十人くらいの先生が教えに来てくださっていました。その外国の先生も日本語が話せない方だったので、自然と英語を話すようになり、最後には私も自信をもって話せるようになっていました。私は英語の勉強をするときは、ひたすら問題を解いたり、単語や文法を覚えたり、書いて勉強をすることが中心でしたし、これが一番の勉強法だと思っていました。しかし、交流会に行つて考えが変わりました。英語を話せるようになるには、日本語に頼らず、実際に聞いて話すことが大事だとわかったのです。交流会の最後には、翻訳機も使わずに話せるようになったので、自分の成長がとてうれしかったです。

私がこの交流会で学んだことは、初対面で、しかも言語が違つても伝えたいという気持ちがあれば伝わる、ということだと思います。外国の方の積極性に圧倒されたけれど、自分からコミュニ

ケーションをとろうとされている行動力を目の当たりにしたおかげで、自分の引つ込み思案な部分を克服することができた交流会でした。今は英語の授業で、話すことを意識しながら学習に力を入れています。

私はこれからも英語に関わる機会を増やしていこうと思います。まだまだ苦手な英語だけれど将来、英語に関わる仕事に就きたいという夢もできました。交流会で学んだことを生かして頑張っていきたいと思います。

体験を通して学んだこと

神崎中学校 二年 有馬 京里

私は今年の夏、韓国に行き、英語キャンプに参加しました。参加して思ったことは、韓国の方の英語レベルの高さと積極性のすごさです。

英語キャンプは五泊六日で、韓国の生徒の方と毎日、「人権」「地球温暖化」「世界の食べ物文化」「経済」などの授業に参加し、世界のことを学びました。その授業の中で、韓国の生徒は積極的に発言したり、考えを述べたりして、そのすごさに圧倒されました。それに対して日本の生徒は話を聞くだけでは遠慮というよりも、自分の英語に自信がなくて話せなかったのではないかと思います。私自身も、もし英語が間違ってい

たら恥ずかしいな、周りに笑われるのがイヤだな、と思ってしまい、あまり発言をしませんでした。間違ってもいい、話してみることが大事、と前向きな考えをもつことの大切さを韓国の生徒さんから学びましたし、自信がもてるくらい英語を勉強したいと思いました。

英語キャンプでは、授業だけではなくダンスレッスンを受けたり、美術館に行ったり、プールで遊んだりしました。一緒に遊んで、さらに韓国の生徒の英語レベルの高さを感じました。たくさん話かけてくれたけれど、ときどきわからない単語が出てきて、内容が理解できない部分もありました。話を聞くと、韓国はとても教育に力を入れている国だということがわかりました。みんな塾に何時間も通っていると聞き、意識の高さに驚きました。私も負けていられないな、と学習意欲が高まりました。

そして、私がおもしろいなと感じたのは、国による文化の違いです。たとえば、食事をするとき、日本では食器を持たないと行儀が悪いとされていますが、韓国では食器を持つことはあまりいいこととされています。スープを最後まできちんとスプーンで飲んでいました。毎日、国の文化の違いを見つけることができて、とても興味深かったです。

韓国の方は、初めて会った日本人の私にもすぐに友達のように仲良くしてくれて、とても親切でフレンドリーでした。いい雰囲気の人たちだなと感じました。このコミュニケーション力は私も今後真似していきたいと思います。

この英語キャンプで、英語を通して他の国の人と話せたこと

がとても楽しかったし、世界のいろいろなことについての授業に参加することができて、いい経験になったと感じています。英語キャンプで友達になった韓国の方とは今でも連絡を取り合っており、異国の友達ができたのは初めてなので、とてもうれいす。

日頃、英語はテストや入試のために勉強すると思っっていました。が、実際に交流するために英語を話してみても、人と繋がるため、人と笑い合うために英語を学びたいと考えるようになりました。私はこれからもっともっと英語を学んでもっと表現豊かに話せるようになりたいです。今回の英語キャンプのことを周りに話して、英語はこんなにも楽しいんだよ、と英語の良さを伝えられる人になりたいと思っっています。これから英語を話して、いろんな人と楽しい交流をしたいと思っっています。

いじめられた人々

神崎中学校 二年 渕 上 乃 愛

この世界にいる多くの人がいじめは人を傷つけてしまうからしてはいけないということを知っています。でも、それを知っただけいじめをする人はたくさんいます。いじめている人の数だけいじめられている人もいることになりました。いじめている側は、楽しいとか面白いと思うかもしれませんが、いじめられている側はなにも楽しくないし、むしろ怖くて、恐ろしく

て、逃げ出したい気持ちでいっぱいだと思います。私はいじめたところで何になるのだろうかと常々思います。そして、見て見ぬふりをしている人たちもいじめているのと変わらないと思います。確かに見て見ぬふりをせず先生に言ったことがバレて、次は自分がいじめられるかもしれないという不安はあると思います。私は一人で言うのが怖いなら多くの人で立ち向かえばいいと思います。いじめられている人は、自分で誰かに助けを求めることができないのではないのでしょうか。いじめに気づいた誰かが手を差し伸べることに、これがいじめをなくすための大事な心がけだと考えます。

日本では、いじめられた人をカウンセリングすることが多いですが、外国では、いじめた人をカウンセリングするそうです。日本では、いじめられた人が心を傷めているだろうから話を聞こうと考えますが、外国ではいじめた人の方が心を病んでいると考えるそうです。このことを知って、確かに人をいじめようと思う人の心が病んでいると私も思いました。いじめられた人とともにいじめた人もカウンセリングなどでケアをして、今後二度といじめが起らないようにしていくことも大切だと考えます。

いじめられている人の中には、自分がいじめられていないように装う人もいます。家族や友人に心配をかけたくないから。いじめられているという現実と向き合わなくて済むように。何度も自分に言い聞かせ、平気なふりをする。この気持ちは私にも理解できます。いじめられているという現実を受け止めてしまったら自分が壊れてしまうんじゃないかと恐れている

のだと思います。でも、ごまかし続けていたら、本当の自分を見失ってしまったり、ずっといじめの状況が続いたり、と状況が改善することはないはず。平気なふりをせず、周りに助けを求めることが、一番の解決法だと思います。話すことを怖がらずに、一番話しやすい人、信頼できる人を頼りましょう。そして私たちも日頃から、イヤな気持ちになっている人が近くにいないか、いじめはないか、と周りを見て、助けが必要なきには率先して動ける人でありたいものです。

最近では、直接的ないじめよりもSNSでのいじめをよく耳にします。顔が見えない分、悪口を言いやすかったり、複数で一人のことをおとしめたりしやすい雰囲気になるのかもしれない。うわさ話や人から聞いた根拠のない悪口、そういったことが一瞬のうちに広がる現代。軽い気持ちでSNSに書き込まないこと、誰か傷ついてしまう人がいないか考えながら投稿することが必要だと思います。

いじめを理由に自殺してしまう人もたくさんいます。これは本当に悲しいことです。誰もが誰にでも優しくできる世の中になつてほしい。そのために周りを見続け、いじめは絶対に許さないと伝える、周りに流されない芯をもった人になりたいと思っています。

「ごましお」から学んだこと

神埼中学校 二年 直塚 志歩

私は夏休みに佐賀県の中学二年生が集まって行われた青少年赤十字リーダーシップトレーニングセンターに参加しました。これは、各学校のリーダーとして活躍している人や活躍したいと思っている人が集まって「すばらしいリーダー」になるためのトレーニングを行う一泊二日の研修会です。

私は会場に着いたとき、「頑張りたい」という前向きな気持ちと「どんな人がいるのかな」という不安な気持ちでした。参加者はすでにグループ分けされていて、同じ神埼中学校の人たちとは別のグループでした。他の中学校の人たちと仲良くなれるか心配していましたが、一泊二日という短い時間の中で常に先生方から言われていたある教えのおかげで、すぐに全員と仲を深めることができました。

その教えは「ごましお精神」です。ごはんにごまだけかけてもおいしくはならない、塩だけかけてもしょっぱいだけ、そこでごまと塩を合わせるとごましおという美味しいものができると。ごましおのようにリーダーも一人ではなく、みんなと協力することで成り立つ。という考えです。最初、この話を聞いたとき、私は「ただ協力すればいいってこと？」と思いました。でも違いました。それを教えてくれたのは、私と同じグループのメンバーでした。

一日目の夜、夕食のときの事です。準備を終えて食べよう

としたとき、引率の先生が「ちょっと待って。何か忘れていないじゃない？」とおっしゃったのです。私はその忘れているものに気づくことができず、何も言えませんでした。すると、グループの一人が、「ごましおだよ。ごましお。」と言ったのです。すぐに周りを見て気づきました。食堂での座席が左列に女子、右列に男子とかたまってしまっていたのです。特に私のグループは、女子六人、男子二人と女子の方が数が多かったために会話もできないような状態になっていました。「男子と交互に座ろう。」と他のメンバーが言ってくれて、私はもう一つの「ごましお精神」を理解することができました。

「ごましお精神」はただ協力してリーダーを成り立たせるだけではない。ちょっとした思いやりや新しい考え方、男女関係なく助け合えるような関係を作ることでもあるのだと。この考え方は、日常生活や学校生活でも生かされると私は思います。

私自身も一年生のときから「生徒会役員として活躍したい」という目標があります。これを実現するために日頃から「ごましお精神」を身につけていかなければいけないと思いました。

さらに言えば、この「ごましお精神」は一人だけではよりよい効果が発揮されません。神崎中学校のみんなが分け隔てなく楽しく協力していくためには生徒全員がこの「ごましお精神」を意識する必要があります。今、友達との人間関係で悩んでいる人、充実感を感じられない人、学校での不安や心配事を解決するために、全員の思いやりや助け合いがある生徒会にしていきたいです。困っていたらすぐ手を差し伸べる、学級や学年の全員と笑顔で手を取り合って頑張れる、そんな学校にするため

に「ごましお精神」を伝えて広めていきたいと思っています。

今回のトレーニングセンターは、私にとって本当に良い経験となりました。これを生かして、これからは神崎中学校の中心となる学年である意識をもって、何事にも挑戦していきたいと思えます。

私が住みたい神崎市

神崎清明高校 二年 辻 蘭丸

「来週末ショッピングに行こうよ。」退屈そうに机に突っ伏している時、友達が身を乗り出してきた。しかし、私が住んでいる神崎市には大型のショッピングセンターがない。そこで、私は自分が住みたい神崎市について考えてみた。

私が住みたい神崎市とは、ショッピングモールなどの商業施設が多く出店していて、若者が楽しめる神崎市である。

もちろん、神崎市には良いところが沢山ある。例えば、豊かな自然環境に囲まれており、青い空と美しい緑が広がっている。また、四季折々の風景や植物が魅力的で、日常生活で自然と触れ合うこともできる。

また、神崎市は歴史的な価値が豊かな場所でもある。古代から続く歴史的な建物や伝統文化に触れることができる。例えば、脊振山系の豊かな自然に恵まれ、新緑、紅葉の名所となっている国の名勝「九年庵」。また、弥生時代の大規模な環濠集

落跡である「吉野ヶ里遺跡」。これらをはじめとして、「王仁博士顕彰公園」等の歴史的遺産や、「浄徳寺のシャクナゲ」等の自然の風景地等の観光資源が数多くある。そして、地域の祭りや伝統行事は、地元の人々の「絆」を感じさせ、観光客にも魅力的な体験を提供している。こうした文化的なイベントや遺産は、市の魅力を一層引き出している。

また、実際に私が神崎市に住んでいてよいと感じることも多々ある。例えば、交通量が少なく、道路の見通しが良い点や、周りに自然が多く長閑な気分が味わえる点が挙げられる。運転が好きな人には気持ちのよいドライブができる町だということも言えるだろう。

しかし、その一方で、交通の便が悪く、バスの本数も少ない。さらに、最寄りの駅までも車で十分ほどかかってしまうなどという短所もあるのだ。また、私は自動車の乱暴な運転による危険な場面を幾度か経験したこともある。また、一市民として神崎市の交通事情を見てみると、道を譲らない人や、スピードを出しすぎている人が多い気がする。実際に事故の現場を見かけることも多々ある。

また、田舎町ということもあり、刺激が少ないというのもマイナス面だ。大型のショッピングセンターや高速道路がないため、遠出するのが難しい。よって、買い物に行くのにも自家用車は欠かせず、移動手段は基本的に車になるだろう。そうすると、まだ車の免許の取得が不可能な学生は、さらに遠出が難しくなる。そこで、電車やバスを利用して、外出をする人も少なくないただろう。すると、電車賃が発生し、学生にとっては金

銭的に負担になるという点で大変悩ましいだろう。

また、現在、神崎市の人口が減り続けている。その理由として、進学や就職などを機に県外に流出する「社会減」がある。それに加えて、二〇〇三年からは死亡者数が出生者数を上回る、「自然減」が原因というデータが示されている。また、自然減は少子高齢化が原因とされているので、若者の立場に立つて考えると、暮らしていく市になるだろう。理由としては、少子高齢化が進んでしまうと若者の年金負担が増えてしまう点や、労働力の減少により、産業の多様性に繋がってしまう点が挙げられる。

このような現状を改善するために、神崎市は豊かな自然環境を守りつつ、若者から高齢者に至るまですべての人々が住みやすい市を作るべきだと考える。また、その改善策を立てる際は、私たち神崎市民の声を是非聞いて頂きたいと思う。

ボランティア活動を通して

神崎清明高校 二年 堤 千紗

私はこれまで沢山のボランティア活動に参加してきた。始めたきっかけは、中学の時に友人に誘われたといういたってシンプルなものであり、最初は全く乗り気ではなかった。やる気あふれる友人の姿に圧倒され、何をそんなに頑張っているのだろうか？と疑問に思った程だった。しかし、何回かボランティア

活動をしていくうちに、自分は誰かのために役に立っているのかもしれないと感じることができ、積極的になっていったと思う。私がボランティア活動で何を学んだのか二つ紹介したい。

一つ目は、コミュニケーション能力である。

人と関わる事が多い分、対話する力は必要だ。私自身、人見知り、人と対面した時に、言葉がうまく出てこないことが多々ある。何を話したら良いのか分からず無言になってしまいう癖があるが、たわいのない会話でも楽しめるのだと感じ、自己開示を心がけ、相手に質問をしていくようになった。完全に克服できた訳ではないが、自然体で自分から発信することの大切さを理解した。特に印象に残っているのは、「さがフェスティバル」というイベントでサポートボランティアとして活動を行った時のことだ。小学生の子や親子連れの方、年配の方など多様な人々から声をかけられたり、自らお手伝いを行ったりした。また、外国の方から道を聞かれた際、どうしようかと少し戸惑ってしまったが、翻訳機器があったため、その方がどこへ行きたいのか理解することができた。そして、言葉は通じないものの、身振り手振りで表現をし、一緒に目的地まで歩いた。案内が終わったら、笑顔で「センキュー」と言って下さり、胸が温かくなったのを今でも覚えている。何よりも大切なことは伝えようとする気持ち、姿だと実感した。外国人だけでなく、その他にも、コミュニケーションの難しさを抱えている方々もあり、そういった方に対して、どう伝えていくのか、思いをどう受け止めるのか考えさせられた。非常に貴重な体験だったと思う。

二つ目に学んだことは、道徳心だ。ルールやマナーを守るのはもちろんのこと、他者理解と受容は大切だと思う。子供、障がい者、高齢者、外国人など沢山の方を含めて、人は共に生きている。昔の私は、その人の外見によりこうだろうと決めつけがちであったが、見ただ目で判断せず、その人の中身を知ろうという思いで関わるようになった。ボランティアを行ったおかげで私は良い方へ変わったのではないかと感じている。

最後に、ボランティアをする良さを私なりに伝えようと思う。ボランティア活動をすることで、人間性を高めることができる。共に、他人を思いやる力、すなわち優しさの器が広がり、明るく前向きになっていくこととを感じる。私は、幼い頃から不器用で、得意なこともなく、勉強もスポーツも芸術も全てそこそこで自分に自信がなかった。周りに迷惑をかけるばかりで何もないなと思っていた時期があった。しかし、小さな事でもいいから誰かのために頑張ろうと思えたのはボランティアだった。年齢や性別、外見は関係ない。特に学生の時に経験すると、将来に役立つことがあると思う。たしかにボランティアは、面倒くさい、収入が得られないといった意見も分らないものがないが、それ以上に人として何か得られるもの、感じられるものが大きいだろう。ボランティアへの参加は、この世の中に自分が必要なのだ、ほんの少しかもしれないけれど誰かのために役に立てたのだと実感できる機会でもあるため、ぜひ皆さんに参加してほしいと考える。

体験を通して学んだこと

神埼清明高校 二年 松本優香

私は、九月二十八日に福祉系列の授業の一環として「さがすたいる」の講座を受けた。この講座により障害の壁や当事者の思い、これからの社会はどうあるべきかということについて学ぶことができた。

講座では、「骨形成不全症」という、生まれつき骨が脆い病気を持った内田さんという方の話を聞いた。内田さんは、病気の影響で幼い頃から車椅子で生活している。これまで、百五十回以上の骨折と二十回以上の手術をしてきたと話されていた。また、「花粉の時期は、クシャミで骨折してしまうから苦手だ。」とも話されていて苦労の大きさを思い知った。他にも、車椅子については「高さ・段差・狭さ」の三つの「さ」があるという事を教えてもらった。つまり、自動販売機や買い物で一番上の物を取りたい時やわずかな段差でも車椅子では立ち往生する場合がある事、さらに、トイレの横幅が狭く、入れない時に困るといふ事である。そして、そのような時、私たち健常者は、まずは障害者に声をかけて、どのような手伝いが必要か本人に聞くという事が大切だと分かった。その際、聞き方にも工夫が必要で、「大丈夫ですか？」ではなく「何か手伝える事は、ありませんか？」と具体的に聞く方が明確に答えやすくなるため、支援の実現に繋がり、有効であることを学んだ。このように、内田さんの話を聞いていると、私がこれまで想像して

いた障がい者とは、少しイメージが違う事が分かった。障がい者というと一般的に「可哀そうに」や「丁寧に対応しなければならぬ」というイメージが強いのではないかと思う。しかし、内田さんによると、障害とは本人の事と指すのではなく、生活を送る上で困る事、支援となる事を指しているらしい。また、障がい者の事は「皆より少し困った事が多い人」と思っていたのと言われ、私はこれまでのイメージが改まる思いだった。

内田さんの他にも、聴覚障害者の有吉さんという方の話も聞いた。有吉さんは、若い時に突然、耳が聞こえなくなり、今は補聴器をつけて、微音ではあるが音を聞く事ができているそうだ。有吉さんと初めて会った時、驚いた事がある。それは、全く耳の不自由さを感じさせないほどに普通に話していたことだ。事前に、発音がおかしいかもしれないと聞いていたので、なおさら驚いた。何故、普通に話しているかというところ、それは人生の途中までは、聞こえていたからである。音量も分からないので勘で声を出していると言われていた。また、耳が聞こえなくなっただけで、赤ちゃんの産声や息子の声などの「聞きたい音」とハエやいびきなどの「聞こえなくても困らない音」があると言われた。有吉さんの話から、耳が聞こえなくなる事は、決して悪い事ばかりではない事を学んだ。また、有吉さんは、若い頃ピアノの先生をされていたそうだ。今は、音程が分からず弾けなくなってしまったと言われ少し残念そうだった。しかし、ピアノを教えていたからこそ、耳が不自由になつた今も人前で話す事が苦にならないと言われており、「人生においては

どんな経験も無駄にならない」ことを学んだ。最後に、有吉さんに筆談のやり方を教わった。筆談で気を付ける事は、単語で書くことだ。何故かというと、聴覚障害者が用いる手話は、単語で会話するものだからだ。省略できる言葉は、短くすることがコツだと学び、今後、耳の不自由な人とコミュニケーションをとる機会があれば是非、実践したいと思った。

私達の社会は、多種多様な特徴・特性を持った人が混ざり合って暮らしている。利害がぶつかる事も多いだろうが、誰かの事を大切に思い、共に暮らしていけるように行動する事、つまり、「支え愛」がこれからの社会にとって大事なのではないだろうか。今後は、誰もが病気や障害に関係なく、皆が平等に暮らしていける社会、「支え愛」が行き渡った社会を目指していきたい。

私の夢

神埼清明高校 二年 松 永 芹

私は将来、服飾の仕事に就きたいと考えている。その中でも特に、デザイナーやパタンナーという職業に憧れている。私がファッションに関わる仕事に就きたいと思うようになったきっかけは、幼い頃からずっと服が好きで、おしゃれをするため、自分が明るくなったり、新しい自分を見つけられたりするため、自分自身で着てくれた人を笑顔にできるような服を作りたいと

思ったからだ。

私は、小学生の頃に「カンナさーん」というテレビドラマを見てファッション業界の仕事について、それ以前よりも詳しく知ることができた。例えば、ファッションデザイナーが作成したデザイン画をもとに、パターン（型紙）を作るパタンナーや、糸・染色・生地などの素材作りを行うテキスタイルデザイナー、洋服や小物など、布地の縫製を専門的に行うソーイングスタッフなどだ。私はファッション業界の仕事詳しく知ることができてそのキラキラとした世界観に夢を抱いた。

ファッション業界には、有名なデザイナーが数多くいるが、私はその中でも、「榎本紀子」(norienomoto)というデザイナーに特に憧れている。彼女は日常生活からインスピレーションを受けてデザインしていて、曲線の特徴としたデザインの、「絵になる小物、衣服類」が有名だ。彼女のデザインはとてもシンプルだが、その美しい曲線のデザインのアイテムは、見る人に「独特」や「個性的」といった印象を与えていると思う。彼女はデザインだけでなく、パターンや縫製などの服作りの全ての工程を自分自身で行っている。もともと私は、彼女のデザインに惹かれて憧れていたけれど、物作りへのこだわりを知り、さらに彼女に対する憧れの気持ちが強まった。私は彼女をデザインだけでなく、責任感の強さや考え方といった面でも非常に尊敬している。

私は、榎本さんのように、自分がデザインした服を着たり、アイテムを身につけたりしてくれたい人たちに、笑顔を届け、夢を与えることができるようなデザイナー、そしてパタンナーに

なりたいと思う。しかし、その夢を叶えるためには、勉強することが必要であるため、高校卒業後は、服飾の専門学校に進学し、ファッションに関する知識や、服作りの技術をしっかりと身につけたいと思う。そして、服飾関係の仕事に就くという夢を叶え、人々に笑顔や夢を与えられるかっこいい人間になりたいと考えている。

楽しむことの大切さ

神崎高校 一年 福地 優衣

皆さんは、何か打ち込んでいることがありますか？「ある」という皆さんに、さらに質問。「それに取り組んでいる時、あなたは心の底から楽しんでいますか？」と聞かれたら、何と答ええますか？少し前の私は、この質問に自信を持って「はい」と答えることができませんでした。

私は、高校に入学してから弓道を始めました。最初は基礎から入り、やっと弓矢を使つての練習ができるようになり、喜んだのもつかの間、的中どころか矢が的まで届きすらせず、毎日悔しい思いをしました。先輩や外部コーチ、顧問の先生からアドバイスをもらいながら練習を重ねるうちに、自分が少しずつ上達していつているのを実感しました。初めて矢が的に中つた時は、「弓道って楽しい」と心の底から思いました。ところが、順調の中数も増え、このままどんどん上達するに違いな

いと自信がついてきた頃、小さな挫折を味わいました。

いつものように弓を引いていた時、弦が当たってしまい、腕が少し腫れてしまいました。弓道の練習ではよくあることで、次の日には腫れはひいたのですが、それ以来、弓を引くのが怖くなってしまったのです。『また当たったら怖い』という不安から、つい弦を身体から離してしまうようになりました。そのため、射る時の姿勢が崩れてしまい、矢が的に届かないことが多くなってしまいました。そのような状態の時に、試合の団体戦のメンバーの一人に選ばれました。試合に向けて気持ちを切り替えようとしても、なかなかうまくいきませんでした。他のメンバーに迷惑をかけてしまっていると思うと、部活動に行くことすら憂鬱に感じてしまっていました。そんな時です。一人の友人が、「いろいろ考えないで、楽しんで活動しようよ。」と声をかけてくれました。この言葉を聞いて、自分が、失敗したら迷惑をかけてしまうという意識に囚われてしまっていたことに気づきました。そして、『弓道を単純に楽しんでいた頃の気持ちをも、もう一度思いだそう』という、前向きな気持ちになりました。試合では一本のみの的中で、決して満足のいく結果ではありませんでしたが、楽しんで参加することができました。

この経験から、二つのことを学びました。一つは、「失敗を極度に怖がつてはいけない」ということです。もちろん、まったく失敗を気にしない、というのは駄目ですが、くよくよと失敗を怖がりすぎていては、物事は悪い方ばかり進んでしまうことに改めて気づきました。失敗への恐怖を一度リセットして

考え方を変えることこそが、前進するために必要なだと痛感しました。二つ目は、「どんな時も楽しむことを忘れないことの大切さ」です。今回私は、友人の言葉で楽しむことを思い出すことができました。弓道部に入ることを決めたのは自分で、楽しみながら打ち込んでいたはずなのに、いつの間にか弓道をするのが辛くなっていました。楽しむことの大切さを思い出した今、前以上に弓道が好きになりました。今、「打ち込んでいることに取り組んでいる時、あなたは心の底から楽しんでますか?」と聞かれたら、私は自信を持って「はい」と答えます。

今回私は友人の言葉に助けられました。もしも、「楽しむ」ことを忘れている人がいるならば、その人に伝えたいと思います。「楽しむことが継続の鍵だし、楽しむことで自然と上達もするし、楽しむことで苦しさも乗り越えられる。だから、楽しんでやろう。」と。

ラブマイセルフ

神埼高校 二年 井上 陽 愛

みなさんは、自分の事が好きですか?私は自分の事が嫌いでした。何をしても自分に自信がなく、自分自身を否定し、誰かと比べ自分で自分の評価をマイナスにしてしまっていました。さらには、この世の中で自分が一番辛いのではないか、本当は

みんな私のことが嫌いなのではないか、そんなことを考えていました。そのような時に出会ったのが「ラブマイセルフ」という言葉です。この言葉は、自分自身を愛するという意味です。

私はこの言葉に出会って、考え方や行動を変えることができました。例えば、他人と比べずに過去の自分と比べる、今日も起きられて偉い、生きていだけで偉いなど、自分を褒める基準を下げる。口癖を「何とかなる」、「ありがとう」などポジティブな言葉に変える。そして、それでも自分を否定し続けてしまう時には好きなものを食べて、考えすぎないように寝るようにする。これらのことをする事で少し気持ちが楽になりました。もしかすると自分自身を愛することは、他人を愛することよりも難しいかもしれませんが、自分の大切な人が落ち込んでいると想像してみてください。そのような時、誰もが「大丈夫だよ、無理しないでね」など優しい言葉をかけるでしょう。私は、自分がその状況になった場合、それらの言葉を自分自身にかけるべきだと思います。そして、それが「ラブマイセルフ」なのだと思います。

私の好きな曲の中に、「失敗は自分自身であり、人生という星座を作る輝く星だ」という歌詞があります。この歌詞を聞いて、今までの後悔、忘れたい出来事や失敗、それらの星を全部繋いで出来上がった星座こそが最も輝く星、今の自分なのだと考えました。今までの私は、過去の失敗や後悔にとらわれていましたが、辛いことがあってもそれは絶対に無駄にはならない、これ乗り越えることによって自分がもっと成長することができ、輝くことが出来るのだと考えられるようになりました。

た。こんな自分にも良いところが、輝く星が備わっていることに気がつくことが自分を愛する第一歩だと思えます。

世の中には、自分の事を愛せない人がたくさんいると思います。ですが、忘れないで欲しいです。自分を愛せない人が他人に好かれるはずがありませんし、他人を愛することもできません。辛くて逃げだしたくなる自分、うまくいかなくて泣いてしまう自分、どんな自分も愛すべき自分なのです。

私は、失敗したなどと思わず、その失敗のおかげで今の自分がいる、正解の輝く道が切り開かれたと思えるように生きていきたいです。そして他人からの評価を気にして、他人の人生にならないよう、自分を大切にして自分が主役の人生を送ってきたいです。

高校を卒業する頃には、笑顔で自信をもって自分の事が好きだと言える人間になれますように。そして、「ラブマイセルフ」の考え方がもつと広まり、自分に自信のある人が増えることを私は願っています。

環境問題解決に向けて私ができること

神埼高校 二年 宮原真希

今、世界中で水質汚染、土壌汚染、大気汚染、森林破壊、絶滅危惧種の増加など様々な環境問題が起こっています。なかでも、地球温暖化による海面上昇は今世紀末までに二メートルに

も及ぶと予測されており、水没してしまうとされる国も多くあります。日本も例外ではなく、東京や名古屋、大阪などの大都市も海に沈むという予測が出ています。また、今年二〇二三年は、持続可能な開発目標であるSDGsの折り返し地点でした。日本の達成度は十五%で世界では二十一位です。順位を見ればそこまで低いとは思えないかもしれませんが、日本にはいまだ多くの問題が残っています。

自然には、自分で復元する力があるので少し壊れたくらいでは、劇的に環境が破壊されることはありません。しかし、現在、地球は人間によって自然の復元できる限度を超えており、地球の環境は危機的状況です。このままでは、地球が人間の住めない惑星になるのも時間の問題ではないでしょうか。このような環境破壊が止まらないのは多くの人が環境問題について、自分のこととして真剣に向き合っていないからだと思います。そのため、私は将来、地球環境を守るためにたくさんの人に環境問題について興味を持ってもらえる活動をしたいと考えています。

私は、小学四年生のころから吉野ヶ里町を流れる田手川で水生生物調査を行ってきました。田手川は自然豊かな川で、たくさん種類の水生昆虫や淡水魚が生息しています。中には、他県ではほとんど見ることができなくなった絶滅危惧種に指定されている魚も生息しています。これは、田手川に限った話ではなく、佐賀県を流れる川には多くの絶滅危惧種が生息しており、淡水魚の宝庫と言われています。もちろん神埼の城原川流域にも絶滅危惧種に指定されているニホンバラタナゴという淡

水魚がいます。この淡水魚は北九州に生息し、特に神埼が最後の砦といわれるほど珍しく希少な魚なのです。私は、現在絶滅危惧種に指定されているオヤニラミという魚について研究しています。最終的には人工繁殖を目標にしており、今はこの魚の生態について研究しています。

私はこの研究を通して自然を見る目や観察する目を養い、守りたいと思うようになりました。しかし、環境の保全は一人ではできません。仲間を増やす必要があります。私は大学で環境学を学んだ後、地域の人々に対して身近な生き物観察会を開きたいと考えています。特に次世代を担う子供たちを対象に、身近な自然に生息する生き物を観察することで楽しみながら生き物をより身近に感じて、環境問題に興味を持つ人を増やしていきたいです。ゲームやスマートフォンではなく自然にある楽しさをこの観察会を通して知ってほしいです。自然と触れ合う機会が増え、自然を観察する目や大切に思う心を養えると思います。そして大人になっても、その気持ちを忘れずに、積極的に環境保全に参加しようとする仲間を増やしたいです。環境保全に対する意識が高い仲間が増えることで、人々が行う行動が変化し、企業や行政を突き動かすことができると考えています。

私は、神埼の町並みや自然が大好きです。神埼市には、有名な九年庵をはじめとする様々な名勝や史跡があります。それだけではありません。豊かな自然と人々の暮らしがうまく融合する文化があると感じています。私は将来、神埼の自然環境と人々の関係をさらに発展させ、環境保全のモデルケースとして日本や世界に発信していきたいです。

特別出演



みなさん、こんにちは！！

千代田中学校吹奏楽部です。現在2年生10名、1年生7名、計17名で活動しています。

3年生が引退し、とても少ない人数ですが、皆さんに楽しんでいただける演奏を目指して日々練習を頑張っています。

今年はコロナウイルス感染防止対策が少しずつ緩和され、演奏する機会が増えました。これまでできなかった桜マラソンでの演奏や地元企業での演奏など、お世話になっている地域で演奏することが増え、また、今回も地域の行事に参加させていただく運びとなり、大変嬉しく思います。

また、今年の吹奏楽コンクールやアンサンブルコンテストでは、目標としていた金賞を受賞することができました。これまでのコロナ渦では思うように練習ができず、悔しい思いをしましたが、それでも「できることを着実に！」を目標に、基礎からしっかり積み上げ、今年は目標が達成できたことに大きな感動がありました。

今後も千代田中学校吹奏楽部のモットーである

「3つの心」

～一生懸命取り組む心・思いやりの心・感謝の心～

を胸に頑張っていけますので、どうぞ応援よろしくお願い致します。

今日は、「青と夏」「Paradise has no border」「学園天国」などを
お送りいたします。皆さまの心に届くように楽しく、心を込めて演奏します。

短い時間ですが、一緒に楽しい時間を過ごしましょう。

よろしく申し上げます。



